

3-2 台渡里廃寺跡 (第26次)

所在地	水戸市渡里町字前原 2874-1 外
調査面積	1,636.5 m ²
調査期間	1次 平成17年8月24日 ～10月3日 2次 平成17年12月13日 ～12月28日
検出遺構	竪穴住居跡 8, 掘立柱建物跡 11, 溝跡 1, 土坑 3, 円形有段遺構 1, 井戸跡 1
出土遺物	縄文土器・剥片・土師器・須恵器・瓦・鉄製品
調査担当	川口武彦・新垣清貴
調査概要	店舗建設工事に伴う照会

が提出された。照会地は台渡里廃寺跡の南方地区に隣接する地域であり、台渡里遺跡の範囲に該当する地域であるが、平成15年度に部分的な確認調査を行った際に、南方地区の伽藍に係る遺構の分布が把握されていたことから

(第57図の03N-T3・03N-T4)、台渡里廃寺跡(第26次)として取り扱うことにした。周辺の遺構のさらなる広がりを把握するため、8月24日～10月3日に確認調査を実施した。

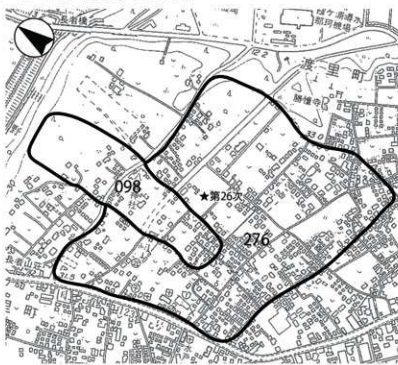
開発対象地にトレンチを5箇所設定し、重機による掘削を行った(第57図の05N-T3～05N-T8)。その結果、殆どのトレンチにおいて竪穴住居跡や掘立柱建物跡等の遺構とみられるプランが検出された。これまで確認されていた南方地区の寺院の東側寺院地区画溝とみられる溝跡や掘立柱建物跡の柱列、7世紀後葉から8世紀前葉の遺物を含む竪穴住居跡等が検出された。竪穴住居跡には一辺が8mを超える規模のものもあり、通常の集落に見られるものとは明らかに異なっていた。また、南方地区の寺院の東側寺院地区画溝の東方より検出された掘立柱建物跡には、柱掘方が1.3m×0.9mに及ぶものもあり、柱間が11尺となるものも含まれていたことから、官衙関係の施設の一角ではないかと予測された。

重要遺構の可能性があることから、8月30日に県教育庁文化課の文化財保護主事を招聘し、遺構の現状を把握してもらった。県の文化財保護主事からは、掘立柱建物跡については規模や主軸が不明であるため、調査区の拡張するよう助言を受けた。この助言を受け、トレンチの部分的な拡張を行った。その結果、SB003とSB004はいずれも側柱形式の掘立柱建物跡であること、SB003の南側からは布掘状の掘方を持つSB006と主軸や柱掘方の規模が異なるSB007が新たに検出された。

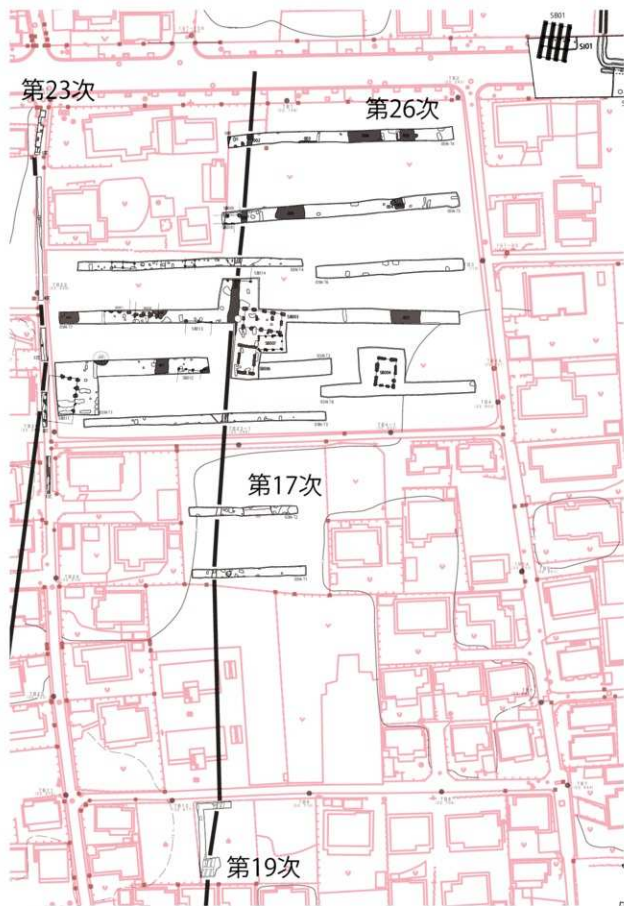
9月29日には、文化庁文化財部記念物課埋蔵文化財部門の文化財調査官を招聘し、確認された遺構の現況を視察してもらった。文化財調査官からは、SB006とSB004の柱筋が並んでいるように見えることから、その間やさらに西側に掘立柱建物跡が並んでいないかを確認する必要がある旨、指導を受けた。これを受け、遺構の広がりをさらに把握するため、12月13日～28日の期間にトレンチを2箇所追加し(第57図の05N-T1・05N-T2)、重機による掘削を行った。その結果、計画地内における遺構・遺物の空間的広がりをほぼ把握することができた。

最終的に確認された遺構は、古墳時代終末期～平安時代の竪穴住居跡 8軒、掘立柱建物跡 11棟、溝跡 1条、土坑 1基、円形有段遺構 1基、中世の井戸跡 1基であった。また、各遺構からは土師器・須恵器・瓦・鉄製品・内耳土器等が出土した。以下では、遺構の確認されたトレンチについて記述を行い、最後に遺物について遺構毎に報告する。

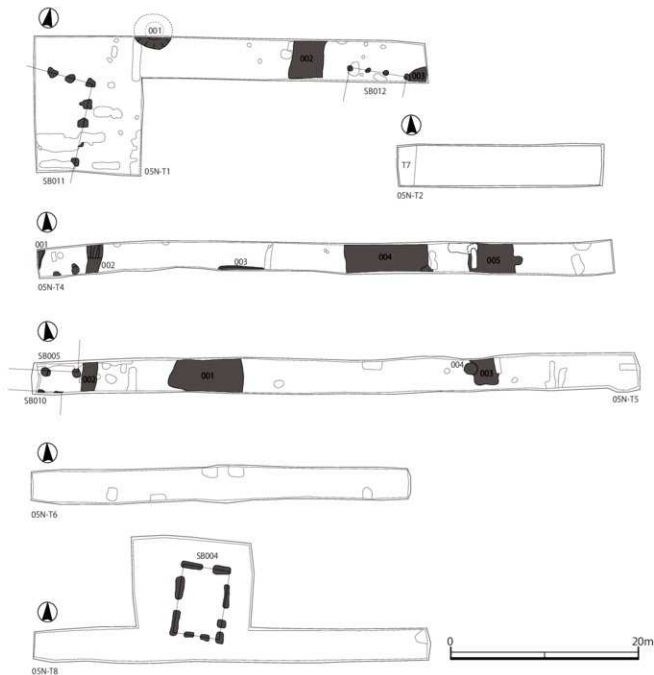
(川口・新垣)



第56図 台渡里廃寺跡(第26次)の位置



第 57 図 台波里廃寺跡 (第 26 次) の位置と周辺の遺構配置



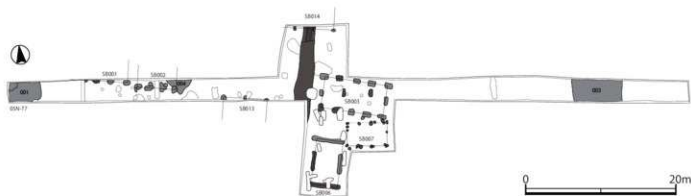
第58図 台渡里鹿寺跡（第26次）のトレンチ平面図①（T1・T2・T4・T5・T6・T8）

(1) 05N-T1

SB011 掘立柱建物跡である。側柱形式で主軸はN-10°E。桁行5間以上、梁行3間以上とみられ、柱間は7尺の南北棟。第23次調査の3区で確認された掘立柱建物跡と同一の遺構の可能性はある。同一建物跡であるとすると、桁行6間、梁行4間程度の規模（南北10.5m、東西8.4m）が想定される。

SB012 掘立柱建物跡である。側柱形式で主軸はN-10°E。桁行不明、梁行3間とみられ、柱間は8尺の南北棟。
001号遺構 円形有段遺構である。東西4m、南北2.2m以上。直径4m程度と推定される。内面黒色処理の施された土師器が出土していることから、9世紀後葉に帰属するとみられる。

002号遺構 竪穴状遺構である。東西3.5m、南北4m以上。遺物は出土していないことから、時期の判定は困難であるが、中世によくみられる竪穴状遺構の可能性はある。



第59図 台渡里廃寺跡（第26次）のトレンチ平面図②（T7）

003号遺構 竪穴住居跡である。東西2m以上、南北1.5m以上。竈等の付帯施設は確認できていない。出土遺物から奈良・平安時代に帰属するとみられる。

(2) 05N-T4

001号遺構 性格不明。東西1m以上、南北2m以上。竈等の付帯施設は確認できていない。

002号遺構 南方地区の寺院地東側区画溝。上面幅1.6m、底面幅0.4m。既往の調査成果から9世紀後葉に造営され、10世紀初頭には人為的に埋め戻されたとみられる。

003号遺構 竪穴住居跡カ。東西5m以上、南北0.4m以上。竈等の付帯施設は確認できていないが、004号遺構及び005号遺構が東側に竈を持っており、傾きも似ていることを考慮すると7世紀後葉に帰属する可能性がある。

004号遺構 竪穴住居跡。東西9m以上、南北3m以上。東側に竈を持つ。出土遺物から7世紀後葉に帰属するとみられる。

005号遺構 竪穴住居跡。東西5.4m以上、南北3m以上。東側に竈を持つ。出土遺物から7世紀後葉に帰属するとみられる。

(3) 05N-T5

S8005 掘立柱建物跡である。側柱形式で主軸はN-10°-E。桁行・梁行ともに不明。柱間は10尺。

S8010 掘立柱建物跡である。側柱形式で主軸はN-10°-E。桁行・梁行ともに不明。柱間は8尺。

001号遺構 不整形であるが、竪穴住居跡とみられる。東西8m以上、南北3m以上。竈等の付帯施設は確認できていない。出土遺物から7世紀後葉に帰属するとみられる。

002号遺構 南方地区の寺院地東側区画溝。上面幅1.6m。既往の調査成果から9世紀後葉に造営され、10世紀初頭には人為的に埋め戻されたとみられる。

003号遺構 竪穴状遺構である。東西3m、南北3m以上。遺物は出土していないことから、時期の判定は困難であるが、中世によくみられる竪穴状遺構の可能性はある。

004号遺構 井戸跡である。直径1.4m。カワラク及び内耳土鍋が出土していることから、中世の井戸跡とみられる。

(4) 05N-T7

S8001 掘立柱建物跡である。側柱形式で主軸はN-10°-E。桁行不明、梁行3間以上とみられ、柱間は7尺。

S8002 掘立柱建物跡である。側柱形式で主軸はN-10°-E。桁行不明、梁行3間とみられ、柱間は5尺の南北棟。

S8003 掘立柱建物跡である。側柱形式で主軸はN-10°-E。桁行4間、梁行2間、柱間は7尺の東西棟。中央やや北寄りに間仕切りに係る可能性のある柱穴2基を伴う。

S8006 掘立柱建物跡である。側柱形式で主軸はN-10°-E。桁行3間、梁行2間、柱間は桁行7尺、梁行6尺の南北棟。

S8007 掘立柱建物跡である。側柱形式で主軸はN-0°-E。桁行3間、梁行2間とみられ、柱間は5尺の南北棟。

他の掘立柱建物跡よりも柱穴の規模も小さく、主軸も異なることから、中世以降の可能性がある。

S8013 掘立柱建物跡である。側柱形式で主軸はN-10°-E。桁行不明、梁行2間。柱間は7尺。

S8014 掘立柱建物跡である。側柱形式で主軸はN-10°-E。桁行3間以上、梁行不明。柱間は7尺。

001号遺構 竪穴住居跡。東西4m以上、南北3m以上。竈は確認されていない。出土遺物から9世紀後葉に帰属するとみられる。

002号遺構 南方地区の寺院地東側区画溝。上面幅1.6～2.1m。既往の調査成果から9世紀後葉に造営され、10世紀初頭には人為的に埋め戻されたとみられる。

003号遺構 竪穴住居跡。東西4m以上、南北3m以上。竈は確認されていない。出土遺物から7世紀後葉に帰属するとみられる。

004号遺構 竪穴住居跡。東西4m以上、南北3m以上。竈は確認されていない。SB002に切られていることからSB002よりは新しい。

(5) 05N-T8

S8004 掘立柱建物跡である。側柱形式で主軸はN-10°-E。桁行5間、梁行3間とみられ、柱間は5尺の南北棟。
(川口・新垣)

(6) 出土遺物

[05N-T1]

001号遺構 本遺構から出土した遺物は、総計57点、総量3,166gである。その内訳は、土師器32点577g、須恵器15点801g、近世陶器1点15g、鉄製品4点12g、礫(含凝灰岩)5点1,761g、うちここに図示し得たのは須恵器4点である。つまみ部を遺存する蓋(第59図1)は、扁平なつまみ部の形状から考えて、無台杯の蓋である。木葉下産。他方ドーム状の器形を呈し、つまみ部を欠失する蓋(第59図3)は、径が26cmを超える大形のものである。あるいは高盤の可能性もあるが、アセンブリッジから考えると、蓋とした方がより蓋然性が高いとみられる。木葉下産。扁平な器形をもつ蓋(第59図2)は、おりかえし端部は直線的に垂下するもので、緻密な胎土と含有物の僅少な焼成色調の特徴から、猿投産と判断される。やや長くハの字に広がって踏ん張る形状の脚部片は木葉下産である(第59図4)。環部の形状は不明であるが、有蓋小壇(環G)の身に類似した形状を推量することができる。

[05N-T4]

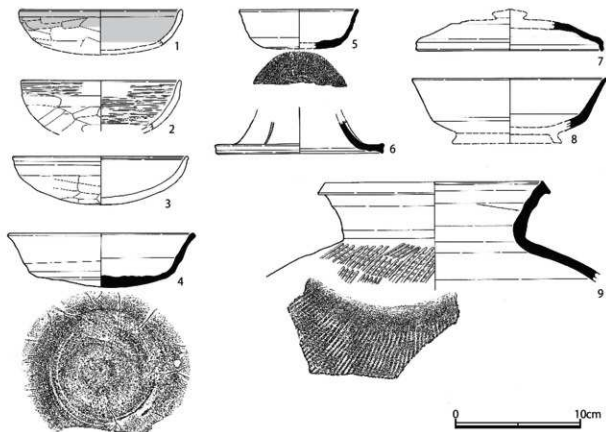
002号遺構 本遺構から出土した遺物は、総計18点、総量1,899gである。その内訳は、在産土師器甕類が3点43g、須恵器3点うち湖西産蓋1点3g、木葉下産甕類2点64g、瓦3点うち平瓦2点238g、丸瓦1点1028g、礫6点523gである。いずれの資料も図示し得なかった。

003号遺構 本遺跡から出土した遺物は、総計13点、総計218gである。その内訳は、土師器10点127gうち赤色系環類2点3g、常陸型甕8点119g、鉄製品(鋸片)1点(12g)、礫1点(91g)である。いずれも図示し得なかった。

004号遺構 本遺構から出土した遺物は、総計394点、総量6,507gである。その内訳は、土師器226点2,756gうち環類71点449g、鉢・甕類144点2,264g、須恵器129点1,946gうち環類99点1,263g、壺甕類23点



第59図 台波里廃寺跡(第26次) T1-001号遺構出土土器

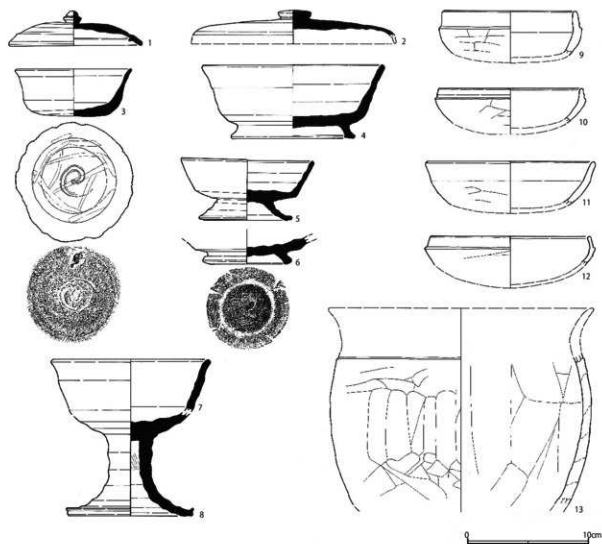


第60図 台渡里廃寺跡（第26次）T4-004号遺構出土土器

639g, 瓦2点11g, 礫24点1,395g, 縄文土器5点103g, 中世土器4点46g, 鉄滓4点24g, 砥石1点235gである。

ここに図示し得たのは、土師器3点、須恵器6点である。うち土師器環では、一部に刺離がみられるもののおおむね全面漆塗黒色処理が施されているもの（第60図1）、無彩で口縁部外面から内面全体にかけて細かいミガキをかけ光沢感のあるもの（第60図2）、口唇部内面に沈線をもち、無彩であるものの胎土が精緻で、焼成色調が鮮やかな赤色系を示すもの（第60図3）があり、これらは、いずれも口縁部が外傾し、無段有稜の丸底形態をなすもので、古墳時代以来の土師器環からの型式変化で捉えられる。須恵器無台環（第60図4）は、有蓋形態と考えられるが、蓋は伴わない。口唇部に面取りがみられ、丁寧な仕上げをうかがわせるが、底部の回転ケズリ調整が浅いためか、底部のみやや肉厚となっている。須恵器小碗（第60図5）は、底部に手持ヘラナデ調整を行っており、平底指向を示す。体部から口縁部にかけては真直ぐに外傾し、ロクロ目を遺さない。須恵器脚部片（第60図6）は、後述するトレンチ5の001号遺構にみられる短脚付盤に類似する形態と考えられる。なお刻目透しをもつ点に相違が認められる。須恵器蓋は有台環に伴うものと考えられる（第60図7）。つまみ部を欠失するが、折り返し端部をもつ。比較的シャープで丁寧なつくりで、天井部には鮮やかな緑色の自然釉が薄く付着する。須恵器環体部片は、腹部が強く屈曲し、シャープに外傾する。腹部付近まで丁寧な回転ケズリが及ぶことから、有台環と判断した（第60図8）。須恵器頸部片は、口唇部が短くシャープに突出する。器壁は薄く、胴部外面には丁寧な格子目叩きが施され、胴部内面には当て具痕跡を丁寧にナデ消すことから、湖西産須恵器の技術を意識していると思われる。なお肉眼観察による須恵器の産地同定の結果、7が湖西産、残りはすべて木葉下産と判明している。

005号遺構 本遺構から出土した遺物は、総計418点、総量8,562gである。土師器301点4,845gのうち環類74点587g（赤色系17点117g, 赤色系暗文2点12g, 褐色系17点109g, 黄褐色系26点211g, 黄褐色系暗文1点5g, 漆塗黒色処理11点133g）、甕類191点4,258g（在地産150点3,355g, 常陸型40点642g）、不



第61図 台渡里廃寺跡（第26次）T4-005号遺構出土土器

明 36点 118gである。また須恵器 86点 2557gのうち、供膳具類 65点 2,041g（木葉下産 49点 1,687g, 新治産 12点 204g, 湖西産 3点 145g, 不明 1点 5g）、襖類 21点 516g（木葉下産 10点 226g, 新治産 8点 223g, 湖西産 3点 67g）である。このほか燻 23点 931g（凝灰岩 3点 24gを含む）、鉄 5点（鉄洋 3点 97g, 刀子 2点 19g）、炭化材 1点 2g, 中世土器 2点 111gである。

ここで図示し得たのは、土師器 5点、須恵器 8点である。図示した土師器 4点はすべて漆黒色処理が施される（第61図 9～12）。このうち 12のみが精緻なうすづくりで、他はすべてやや肉厚な器壁をなす。いずれも精良な胎土をもつ。土師器 襖（第61図 13）は、頸部直下に段をもつもので、胴部は外面タテズリ調整、内面工具ナデ調整を基調とする精良な胎土をもつ。須恵器では、かえりをもつ蓋（第61図 1）と同種の蓋に伴う坏身（第61図 3）がある。いわゆる坏 Gである。有台坏は完形のもの（第61図 5）と台部みの破片がある（第61図 6）。高台端部が外方に突出する特徴をもち、金属器模倣の傾向を強く遺す。こうした有台坏のいずれかに伴う蓋としては、かえりをもつものほかに第61図 2のような折り返し端部をもつ蓋も考えられる。このようにかえりをもつものともたないものが伴って出土している点は、本資料群の年代的位置や様式的特徴を示唆するものである。第61図 8の脚部は高脚付椀のものとみられ、これも金属器模倣器種のひとつとみられよう。第61図 7は胎土の状況やつくりが類似していることからこの高脚付椀の口縁部と判断した。ただしこの高脚付椀は、器壁が厚く鈍重な

つくりをなすから、おそらく二次的な模倣にとどまっているものと考えられよう。2の蓋のみが湖西産であり、その他はすべて木葉下産である。

【05N-T5】

001号遺構 本遺構から出土した遺物は、総計1,477点、総量27,906gである。土師器1,225点22,553gのうち環類374点3,241g（赤色系86点968g、赤色系暗文39点530g、褐色系107点743g、褐色系暗文4点38g、黄褐色系53点439g、黄褐色系暗文15点99g、漆塗黒色処理66点384g、研磨黒色処理4点40g）、襷類851点19,312g（在地産531点14,374g、常陸型316点4,845g、東北系在地産4点93g）である。須恵器は252点5,353gである。蓋は52点1,227gで、木葉下産50点1,124g、新治産1点39g、湖西産1点64gである。これらのうち、端部折り返しのは4点129gで、すべて木葉下産である。それ以外はすべてかえりの付く蓋であることから、本遺構の年代がある程度知られよう。蓋を含む須恵器小形品（供膳具類）は161点4,500g、うち木葉下産156点4,256g、新治産4点180g、湖西産1点64gである。また須恵器大形品は26点676g、うち木葉下産24点623g、新治産1点9g、湖西産1点44gである。また産地不明の細片が65点177g出土している。

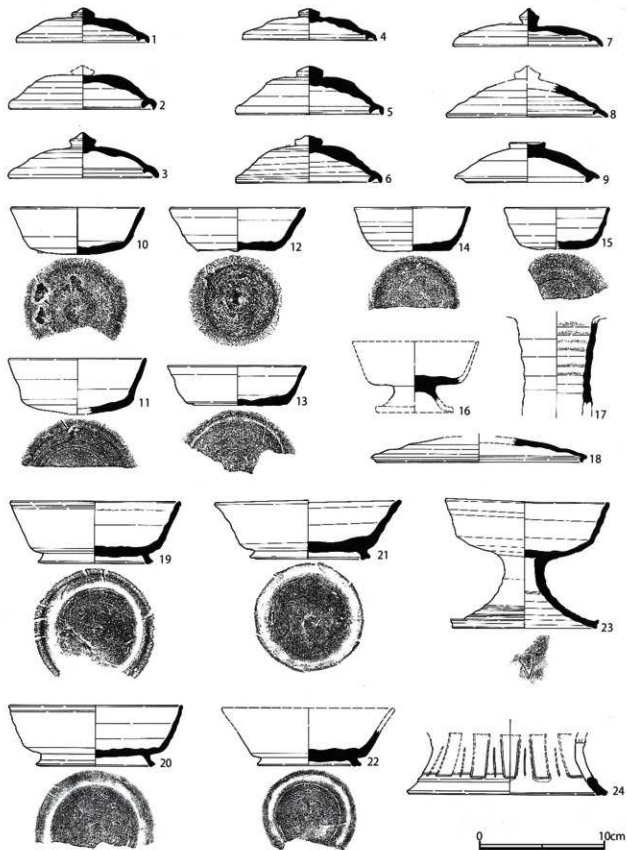
このうち図示したのは土師器35点、須恵器32点である。

まず須恵器からみていくと、有蓋小壺（坏G）が主体をなし、蓋はいずれもかえりが伴う。ただしかえりの形態は多様で、型式学的な前後関係を求め得たとしても、これらに対して時期差を考えることは難しい。同様に身についても体部から口縁部へのたちあがりの形態や底部調整において多様さを見出せる。さてこの他に蓋では有台坏（坏B）に伴うとおぼしき折り返し端部のものが出土しているが（第62図18）、やや内屈する端部の形態からは、かえりをもつ形態からの退化形態と看做することができるから、本資料群に共存する資料と判断して差し支えなからず、新治産の可能性のある第63図8・12・14及び湖西産の第62図9を除けば、おおむね広義の木葉下産として差し支えない。広義の木葉下産には市内田野町所在の山田窯跡群産も含まれる。

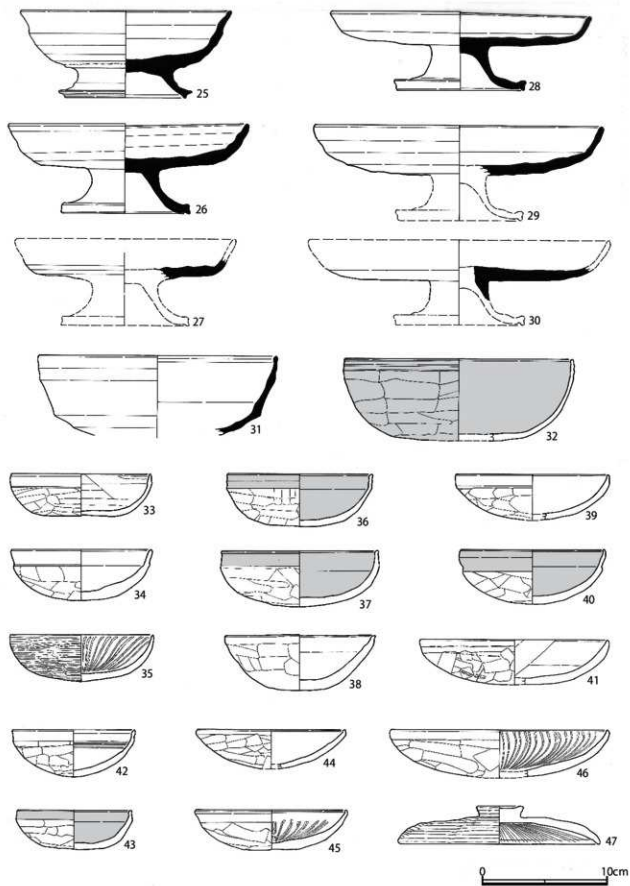
他方有台坏（坏B）では、器壁がうすづくりで口縁部外面に沈線をもつ一群（第62図19・20）と、器壁が厚く鈍重で口縁部から体部へのたちあがりがハの字に開く一群（第62図21・22）とがある。これらは、いずれも広義の木葉下産と判断され、具体的な資料に欠けるがおそらく18のようなものを伴って有蓋形態をとるものと考えられる。つぎに有脚の器種を挙げておくと、高坏（第62図23）、短脚付小壺（脚付坏G）（第62図16）、短脚付大壺（第63図25）、短脚付盤（第63図26・27・28・29・30）などがあり、台あるいは脚をもついわゆる高台器種の豊富さが目を惹く。短脚付大壺は器壁が厚く鈍重ながら、脚端部が外方へ突出する形態をもち、金属器の一次模倣と看做すことができる。他方短脚付盤では口径20cm未満の一群とそれを超える一群とがある。とくに後者は器壁が薄く、丁寧に精巧なつくりをなし、前者と大きな相違をみせる。

壺瓶類では、湖西産長頸瓶頸部（第62図17）と木葉下産横瓶胴部（第65図67）とがある。前者は濃緑色の自然釉が飛散する。そして後者は円盤閉塞技法を用いていることがその痕跡から確かめられる。このほか刻目と透窓とを交互に配置する團脚円面碗（第62図24）や銅鏡模倣とおぼしき大壺（第63図31）がある。両者とも木葉下産と考えられよう。

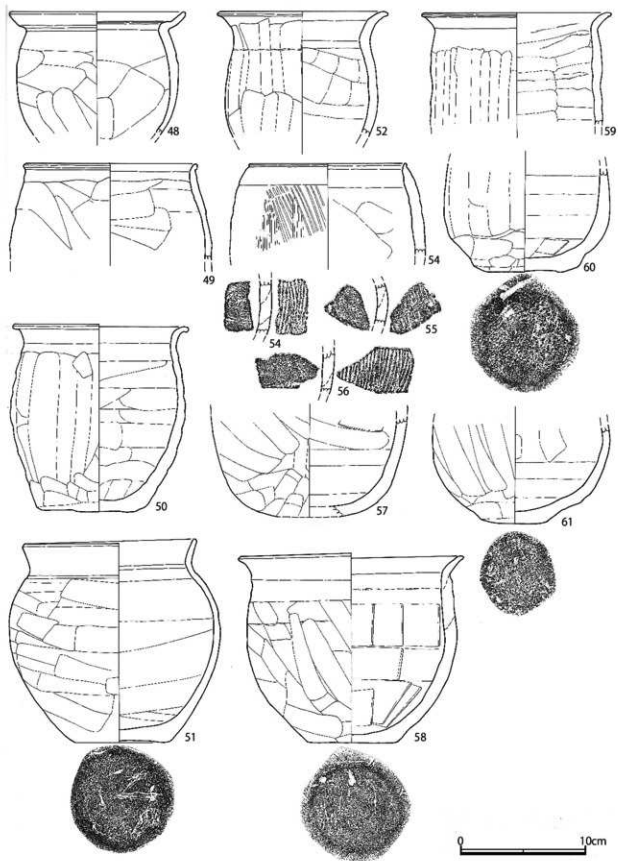
つぎに土師器をみると、坏は口径11～12cmほどの一群（第63図33～40）と口径10cm未満の一群（第63図42・43）とがあり、古墳時代後期以来の伝統的な器形と技術をもちながら、かなり矮小化傾向にあることがわかる。ただしこれらのなかで口縁部と体部との境に段を形成せず塊状をなし、35のように内面に暗文風の放射状ミガキを施すものは、実測し得なかつた小破片のなかにも一定量含まれており、ここに新しい様式の萌芽がみられるのである。また40にみられるような、口縁部が体部との境に段をなした上に内湾しながら立ち上がる形態は、いわゆる「内湾口縁坏」（津野分類F類）に類するもので、下野地域との関わりが想起されよう。これら坏に比べてより扁平な形態をなす皿には、口径15cmをこえる大ぶりな一群（第63図41・46）、と口径12cm程度の小ぶりな一群（第63図44・45）とがある。45や46の内面には暗文風の放射状ミガキが施されている。第63図47は、土師器蓋である。内外面を細かいミガキ調整によって整えられており、畿内様式の土師器を在地で模倣したものと考えられよう。32は、無台・無脚の銅鏡を模倣したとおぼしき大壺である。体部から底部にかけてケズリ調整が施されることや内外面に漆塗黒色処理が施されることから、在来の技術によりなったものと考えられるが、口縁部直下に2条の沈線を施すことから一次的な模倣と考えられる。胎土の特徴や焼成色調から、いずれも在地産もしくは



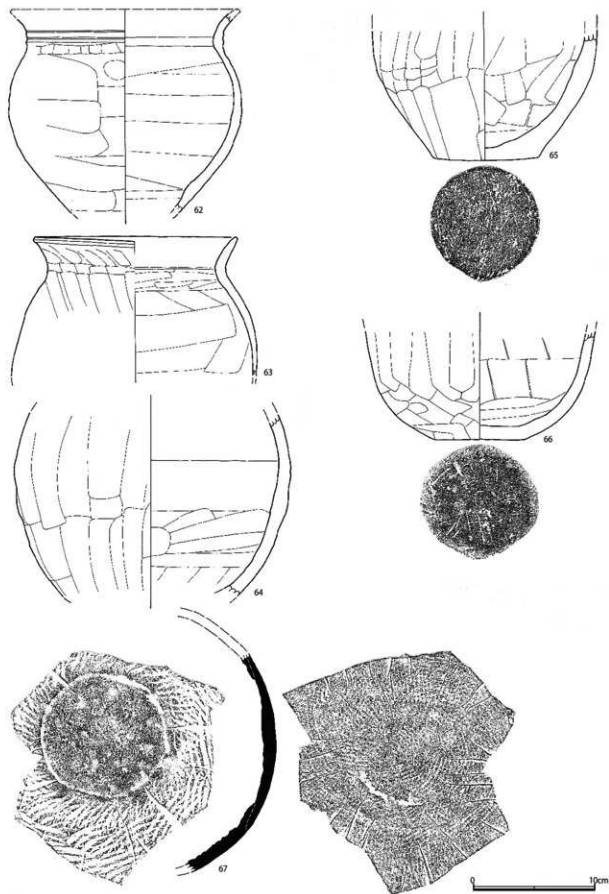
第 62 图 台波里庵寺跡 (第 26 次) T5-001 号遺構出土土器 (1)



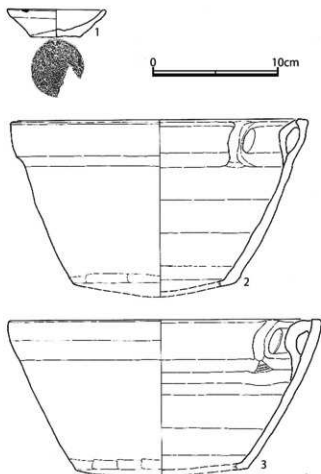
第 63 图 台波里廃寺跡 (第 26 次) T5-001 号遺構出土土器 (2)



第 64 图 台波里鹿寺跡 (第 26 次) T5-001 号遺構出土土器 (3)



第 65 图 台波里庵寺跡 (第 26 次) T5-001 号遺構出土土器 (3)



第66図 台湾里廃寺跡(第26次) T5-004号遺構出土土器

土師器のうち、環3点52g、甕26点593g(在地系16点404g、常陸型10点189g)である。須恵器のうち、環2点12g、甕1点13gである。須恵器はいずれも木葉下産であった。

003号遺構 本遺構から出土した遺物は、総計19点892gである。いずれも小破片で図示し得なかったが、以下にその内訳を示すことで補うこととする。土師器9点215gのうち、常陸型甕が5点171g、在地産の環が2点33gで、残りは器種不明の細片であった。須恵器2点のうちには東海産とおぼしき甕頸部52gと木葉下産杯蓋20gがあった。このほか古代瓦片3点456g、鉄滓1点12gの出土が注目される。上記以外では礫3点126gと縄文土器細片1点11gの出土をみた。

004号遺構 本遺構から出土した遺物は、総計43点12,778gである。第66図1はかわらけである。回転ロウ口成形で底部に糸切り痕が遺るものである。口縁部にスズが付着しているため、燈明皿として用いられた可能性が考えられよう。第66図2及び3は、内耳土鍋である。口縁部内面直下に付けられた耳は、その位置関係から三つの復原可能であるので、いわゆる典型的な常陸型の土鍋と考えられる。2には口縁部外面直下に段を形成し、かなりの深身でうすづくりである。口唇部内面の突出も明瞭だ。他方3は、口縁部外面直下の段は不明瞭で、胴部がハの字状に開いて立ち上がるため、やや浅めである。器壁もやや肉厚で、口唇部内面の突出も明瞭にみられない。これらの所見から、3は2に比べると型式学的にやや後出するものと判断される。いずれにせよ大局的にみれば、1～3はすべて同時期の所産とみてても差し支えない。

さて上記の資料以外は小破片のため図示し得なかったため、以下にその内訳を示すことで補うこととする。土師器8点65gのうち、常陸型甕が1点15g、在地産の環6点40gで、残りは器種不明の細片であった。須恵器8点172gはいずれも木葉下産であった。環類は2点31gで、このうちにかえりをもつ蓋がみられた。壺甕類は5点135g、残りは器種不明の細片であった。古代瓦の細片3点378gの出土もみられた。中世土器に該当するもので

近隣地域で生産されたものと考えられるが、より緻密な胎土がつくられたものやや粗い胎土でつくられたものと両者が混在することから、器種によって原材料を選択的に扱っていたとも考えられよう。

土師器小形甕(鉢)では、頸部を明確にもつもの(第64図48・50～52・58・59)と頸部を明確にもたないもの(第64図49・53)がある。さらに前者には、胴部がより直線的になるもの(50・59)と胴部がより丸みを帯びるもの(48・51・52・58)がある。これらは53を除いてはいずれも胴部外面にケズリ調整、内面に工具ナデ調整が施されている。53及び54～56の胴部外面にはタテハケが施されており、在来の技術によるものではないことが明らかである。大形製品の外面においてタテハケ調整が一般的な東北との関係がうかがわれるのである。なお胎土の特徴から、小形甕(鉢)はすべて在地産と考えられよう。比較的大形の甕としては、第65図62～64の資料がある。いずれも球胴形の外面ケズリ調整甕で在地産と考えられる。また口縁部を上方へつまみ上げ、胴部外面に縦位の粗いタテミガキ調整をもつ常陸型甕は、実測し得なかったものの小破片が一定量出土しているのが注目される。

002号遺構 本遺構から出土した遺物は、総計33点675gである。いずれも小破片で図示し得なかったが、以下にその内訳を示すことで補うこととする。

は内耳土鍋3点73g、底部に糸切り痕を遺すかわらけ5点34gがある。このほか縄文土器3点103g、礫10点7.721gの出土をみた。

【05N-T6】

遺構外 トレンチ6で出土した遺物は、すべて遺構外である。その内訳は、土師器10点65g、須恵器7点72g、古代瓦1点38g、鉄釘1点3g、礫5点91gである。なお土師器のうち1点はトレンチ8遺構外出土の土師器塚と接合し図化した。

【05N-T7】

001号遺構 第67図1は内面黒色処理を施した土師器高台付環である。体部はハの字に開き、そのまま口縁部に至る形状のものである。胎土の特徴から新治産(筑波山麓産)とみられる。第67図2は須恵器の高台片であるが、その断面形状から、2は環に接続するものであろう。第67図3は破片資料ながらいわゆるフラスコ形瓶とよばれるものと推察され、胎土の特徴から常陸産ではなく、東海産とみられる。全体的にやや時期の下る資料が多い。本遺構の年代は9世紀中葉ごろ以降であろうか。

002号遺構 第67図4は須恵器の高台片であるが、その断面形状から、4は壺瓶類に接続するものであろう。第67図5は須恵器裏頸部である。木葉下産で、外面胴部には斜位の平行甲きがみられ、頸部内面には横位の手持ちヘラケズリにより器面を平滑に整えている様子がうかがえる。

003号遺構 第67図6,7は著しく矮小化した土師器環である。伝統的なヘラケズリを底部外面に施すことによって、丸底の器形をつくりだしている。第67図8,9,10は口径に比して器高が浅く、環というよりは皿というべき器形をなしている。とくに10は畿内産土師器を強く意識したらしく、外面に丁寧なミガキを施し、内面に放射状暗文というべきミガキを施している。その口縁部はやや玉縁状になっている様子も注目されよう。第67図11はやや深みのある環で内面に放射状のミガキを施す。第67図14は須恵器高台付環だが、高台の断面形状がシャープで細いことから、古く位置づけられる資料である。第67図15は須恵器脚部だが、その形状からは、トレンチ5の001号遺構で出土した短脚付盤が推定される。第67図12は在地産で頸部直下に段をもつ小形囊(鉢)で、第67図13は常陸型囊の破片である。以上の資料から、003号遺構の年代はトレンチ5の001号遺構の年代に極めて近く位置づけられよう。

004号遺構 第68図1は土師器環である。須恵器環身模倣形態の典型例で、内外面漆塗黒色が施されている。やや深身で底部外面のケズリが太く長いストロークで施されているのをみると、やや古く位置づけられようが、それが7世紀前半代へ下るのかを判断するには躊躇する。第68図2は、須恵器高台付盤である。しっかりとハの字に踏ん張る高台の形状とその法量の大きさから考えて8世紀中葉の所産と考えられよう。

S8003 本遺構から出土した遺物は39点を数えるが、いずれも小破片で図示し得なかった。以下にその内容を示すことで補いたい。土師器裏では在地産と思われるものが5点、常陸型囊に該当するものが3点みられた。また小形囊(鉢)2点、環8点のほか壺の細片と思しきものが出土している。出土した須恵器4点はいずれも木葉下産だが、これらのうちP6から出土した高台付環は高台の形状からみて8世紀後半代におさまるものとみられる。その他古代瓦4点、縄文2点、石器剥片1点、中世内耳土鍋3点、礫4点の出土がみられた。

【05N-T8】

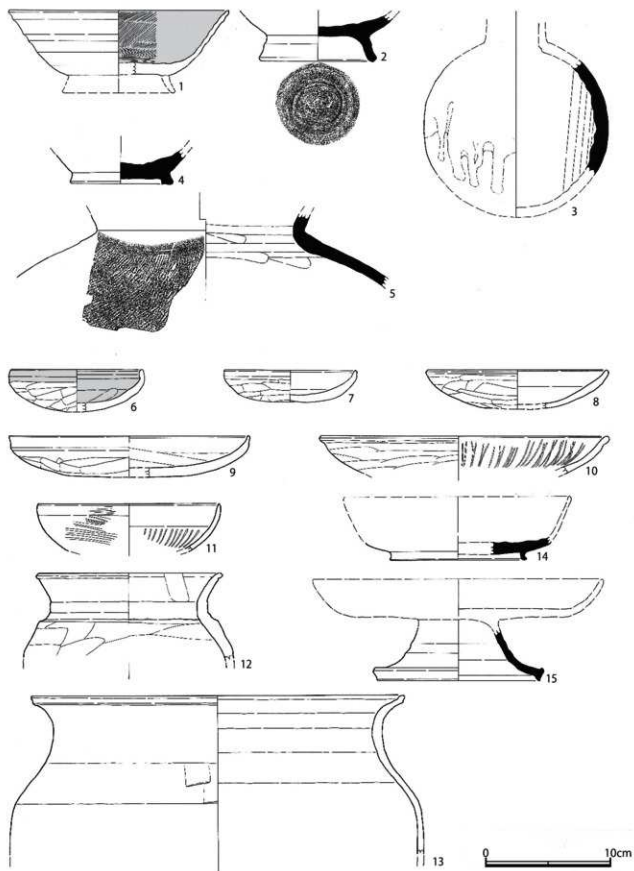
遺構外 第68図3は、土師器塚である。環としてもよからうが、腰部においてやや外方へ大きく湾曲する器形は塚というにふさわしい。外面は手持ちケズリによって器面調整され、内面には細いミガキが加わる。ただし内面のミガキは、アトランダムに施されたのちに、放射状になされるという点で珍しい手法である。ややその手法異質ながら、ミガキ調整を積極的に導入する点から7世紀後葉のいずれかに位置づけて差し支えない。

【その他】

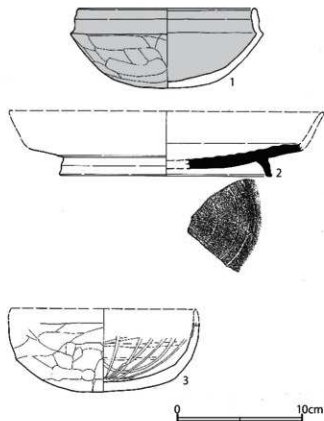
金属製品・鉄残滓 第69図にトレンチ1の001号遺構、トレンチ4の005号遺構、トレンチ5の001号遺構、トレンチ7の003号遺構から出土した金属製品及び鉄滓を図示した。製品はいずれも鉄製である。第69図1は釘、第69図2は吊手金具、第69図3は刀子、第69図4・11は碗形滓、第69図5・6は鏝、7・8は鏝、9は銚、10は鏝とみられる。

(渥美)

縄文土器・石器 第70図1-1及び1-2、2・3は縄文土器である。1-1及び1-2は同一個体であり、2・3も含



第 67 图 台波里庞寺迹 (第 26 次) T7 出土土器
 1 ~ 3 : 001 号遗構 4 · 5 : 002 号遺構 6 ~ 15 : 003 号遺構



第 68 図 台波里廃寺跡 (第 26 次) T7・T8 出土土器
1・2：T7-004 号遺構 3：T8 遺構外

観音堂山地区の初期寺院の主要伽藍の周辺及び整地層の下層からは、掘立柱建物跡の柱掘りかたの重複が見られず、建て替えを行っていない。主軸方位は SB007 をのぞき、いずれも北東方向に 10° 傾いており、観音堂山地区や南方地区の主要伽藍と同じ傾きである。柱掘りかたには土器片や瓦片が含まれている箇所もあったが、段下げを行った結果、柱抜き取り穴やトレンチャー痕に含まれていることが明らかとなった。

柱穴の大半は抜き取られた後に柱痕跡の部分が灰白色粘土で埋められており、柱間の推定が容易であった。こうした共通の特徴を持つことから、SB007 を除く掘立柱建物跡はいずれも同時期に廃絶した可能性が考えられよう。SB007 については主軸方位がほぼ座標北を向いており、柱掘りかたの規模から考えると中世以降のものである可能性が考えられる。03N-T4 で検出された掘立柱建物跡 (SB001 と SB002) についても規模が類似していることから同時期の可能性がある。

掘立柱建物跡の時期については、05N-T7 で 7 世紀後半の土器器が出土した竪穴住居跡 (004 号遺構) の覆土を切って構築されている状況が確認されており、さらに 05N-T5 と 05N-T7 では南方地区の東側寺院地区両溝と掘立柱建物跡の柱列が重複して検出されており、柱穴が溝によって切られていたことから、現状では 9 世紀第 III 四半期以前という年代を与えることができる。ただし、竪穴住居跡と掘立柱建物跡の大半は重複せずに分布域を違えているようにも見える。従って、掘立柱建物跡の構築時期については 7 世紀後半の可能性も考慮する必要がある。

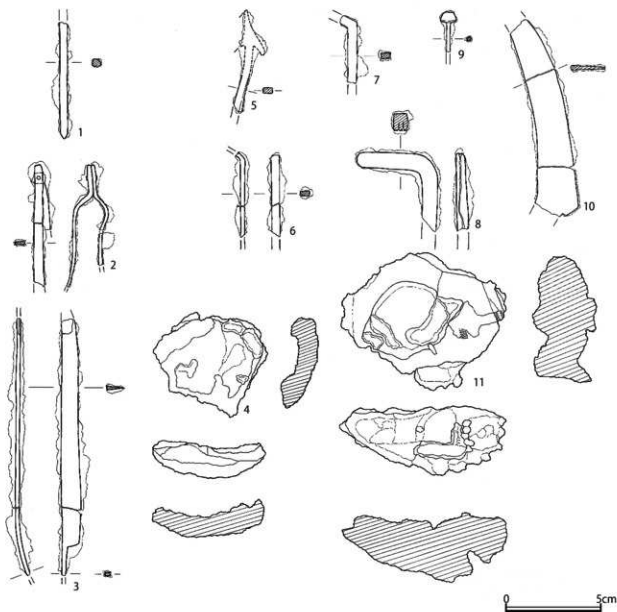
めていずれも晩期とみられる。第 70 図 4 はチャート製の剥片である。

瓦 第 70 図 5～8 は瓦である。5 は格子叩きを持つ丸瓦で、6・7 は格子叩きを持つ平瓦である。8 は凸面にヘラ削りが施された平瓦である。

(色川)

(7) 調査の成果と課題

竪穴住居跡は、開発対象地の北西側に集中しており、いずれも 7 世紀後半から 8 世紀初頭に位置付けられる時期の遺物が覆土に堆積していた。出土した須恵器の坏蓋には水戸市山田窯跡群産とみられるものがあり、7 世紀第 IV 四半期 (飛鳥 III 期新相) のものとみられる。ただし、05N-T5 で検出された竪穴住居跡 (001 号遺構) から出土した須恵器の坏蓋は、山田窯跡群産のものよりも型式学的に古い様相をもつ「かえり蓋」が数点出土しており、構築時期は 7 世紀第 III 四半期 (飛鳥 II 期) まで遡る可能性がある。さらにこの竪穴住居跡の覆土中からは、観音堂山地区の初期寺院の金堂 (SB002) の基壇化粧に使用されているものに酷似する凝灰岩製の砥石も出土しており、観音堂山地区の初期寺院の金堂の基壇化粧に使用された切石が転用されたものであるとすれば、その造営年代は前期評段階 (7 世紀第 III 四半期) まで遡る可能性が出てくる。



第69図 台波里廃寺跡（第26次）出土金属製品・鉄滓

1・2：T1-001号遺構 3・4：T4-005号遺構 5～10：T5-001号遺構 11：T7-003号遺構

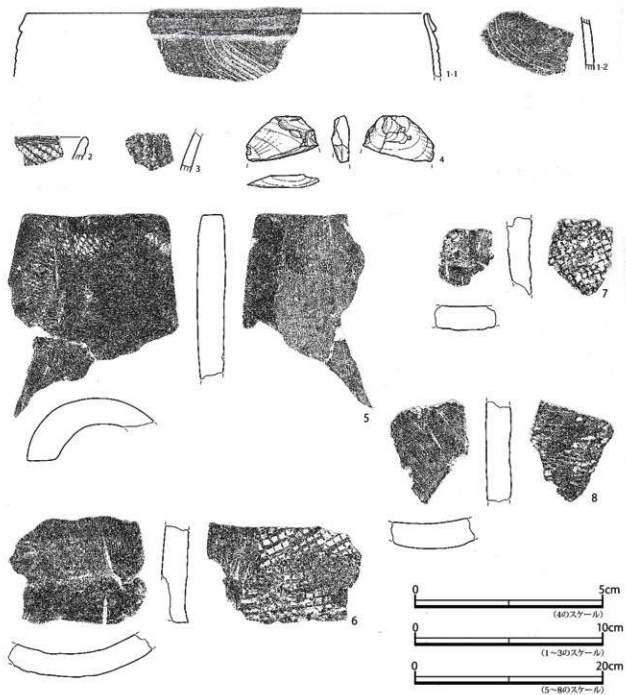
明確な区画施設も持たず、重複も殆どみられない8mクラスの大形竪穴住居跡と大形の側柱式掘立柱建物跡群の性格については現時点では推定の域を出ないが、建て替えが見られないことから、7世紀後半に創建され、9世紀半ばまで存続したと考えられる観音堂山地区の初期寺院の附属施設であった可能性は低いと思われる。

鉄生産に関連する鉄滓などが竪穴住居跡から出土していること、建て替えが全く見られないことから、観音堂山地区の初期寺院の造営集落の一部もしくは、その増城であった評督の居宅などの官衙施設の一部である可能性が想定される。

（川口・新垣）

（8）埋蔵文化財の取り扱い

国指定史跡に係る重要遺構も確認され、本来は現状保存すべきところであるが、地権者及び開発事業者と協議を



第70図 台波里麿寺跡（第26次）遺構外出土縄文土器・石器・瓦

重ねた結果、計画の中止は難しいとの結論に達した。ただし、遺構の保護・保存については理解が得られたため、現況地盤に盛土を行い、30cm以上の保護層を確保した上で、申請建物については浅いベタ基礎工法に変更することとなった。また、浄化槽についても、遺構が確認されなかった空間に埋設することになったため、工事立会が相当であるとした。

（川口・新垣）



写真 13 台波里麻寺跡(第26次)05N-T1 5B011 検出状況(北から)



写真 14 台波里麻寺跡(第26次)05N-T1 001号遺構断面(南東から)



写真 15 台波里麻寺跡(第26次)05N-T4 002号遺構断面(南から)



写真 16 台波里麻寺跡(第26次)05N-T4 004号遺構遺物検出状況(西から)



写真 17 台波里麻寺跡(第26次)05N-T4 005号遺構遺物検出状況(南東から)



写真 18 台波里麻寺跡(第26次)05N-T5 001号遺構遺物検出状況(西から)



写真 19 台波里麻寺跡(第26次)05N-T5 5B005・5B010・002号遺構検出状況(東から)



写真 20 台波里麻寺跡(第26次)05N-T7 001号遺構遺物検出状況(南東から)



写真 21 台波里廃寺跡(第 26 次)05N-T7 S8014-002 号遺構検出状況(南から)



写真 22 台波里廃寺跡(第 26 次)05N-T7 003 号遺構遺物検出状況(東から)



写真 23 台波里廃寺跡(第 26 次)05N-T7 004 号遺構遺物検出状況(南西から)



写真 24 台波里廃寺跡(第 26 次)05N-T7 S8003・S8007 検出状況(南から)



写真 25 台波里廃寺跡(第 26 次)05N-T7 S8003・S8006・S8007 検出状況(南から)



写真 26 台波里廃寺跡(第 26 次)05N-T7 S8003-P6 断面(東から)



写真 27 台波里廃寺跡(第 26 次)05N-T7 S8001・S8002-004 号遺構検出状況(東から)



写真 28 台波里廃寺跡(第 26 次)文化庁記念物課文化財調査官視察風景

第3表 土器・陶磁器・埴輪・瓦観察表

図版	番号	道跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調 (外面・内面)		備考
第4図	1	菅原神社古墳 (第1地点)	トレンチ1	縄文土器	—	縄起線文、削み(棒状工具)、角押文(平截竹管状工具)、波状口縁	—	金多、砂粒(白多)	良好	にぶい黒・灰黄黒	縄文時代中期前半「阿玉台1b式」	
	2			縄文土器	—	縄起線文、角押文(平截竹管状工具?)	—	金、砂粒(白多)	良好	黒黒・黒	縄文時代中期前半「阿玉台2式」	
	3			縄文土器	—	波状口縁	—	金多、砂粒(白多)	良好	灰黒	縄文時代中期前半「阿玉台式」	
	4			縄文土器	—	—	—	砂粒(白多・透多)	良好	灰黄黒	縄文時代中期前半「阿玉台式」	
	5			縄文土器	—	押引文(窪状工具?)	—	金多、砂粒(白)	良好	黒・黒黒	縄文時代中期前半「阿玉台式」	
	6			縄文土器	—	口内面削み、刺突文、沈線文	—	砂粒(白・黒・透)	良好	黒黒・にぶい赤黒	時期不明	
第7図	1	釜神町道跡 (第1地点)	トレンチ1	縄文土器	—	縄文(L.R)、沈線文	—	砂粒(白・黒・透多)	良好	にぶい黒	縄文時代後期初道「帆倉式」	
	2			縄文土器	—	縄文(L.R)、沈線文	—	砂粒(白・黒)	良好	灰黄黒・黒	縄文時代後期前半「堀之内式」	
	3			埴輪・甕	口径7.9 底径3.1 器高4.8	輪軸成形/染付/貫付無軸、内面口縁部「雷文」、足込み二重丸に「編」、外面口縁部「四方禪文」に蓮弁文、二重丸部に「編」「方」、高台部二重圓線・蓮弁文、高台部三重圓線、底裏線あり	1/2以上					肥前
第10図	1	釜久保道跡 (第1地点)	トレンチ2	土師器・手捏土	底径(3.6) 器高(3.0)		底径100%	砂粒(白・黒・透)	良	にぶい黄黒～黒・黒		
第13図	1	鉢塚道跡 (第1地点)	トレンチ1	陶器・甕 志野編部器A	口径(12.2) 底径(8.0) 器高(1.9)	輪軸成形、浅い押出高台/足込み一重圓線、武絵草花文/全面に長石軸	1/2以下					17世紀初道～前半
	2			陶器・甕 志野編部	口径(12.0) 底径(7.0) 器高(2.4)	輪軸成形、口縁部へう附ぎ、内面は型打、削出高台/全面に貫入の多い長石軸、底裏に口直	1/2以下					17世紀初道
	3			陶器	底径(4.3) 器高(1.2)	輪軸成形、削出高台/黒炭が散る茶色の紋軸、底裏は露骨	1/2以下					17世紀前半～後半
	4			土器・かわらけ 中・土師貫	口径(11.8) 底径5.3 器高3.1	輪軸成形、糸切底(右)足込み指ナ字調整	1/2以下	金多	良好	7.5YR6/6 橙		16世紀以降
	5			土器・かわらけ 小・土師貫	口径(6.6) 底径(3.7) 器高2.2	輪軸成形、糸切底(右)	1/2以上	金多、砂粒(白)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙		16世紀以降
	6			土器・かわらけ 中・土師貫	底径(5.1) 器高(1.4)	輪軸成形、糸切底(右)	1/2以下	金、砂粒(白多・透多)	良好	7.5YR7/6 橙		17世紀分
	7			土器・かわらけ 中・土師貫	底径(5.0) 器高(1.8)	輪軸成形、糸切底(不明)	1/2以下	金、砂粒(白・透)	良好	5YR6/6 橙		16世紀以降
	8			土器・内耳土師	—	結構み成形/内耳貼付残存1/外面炭化物付着	—	骨針、砂粒(透多)	良好	10YR2/1 黒・10YR4/3 にぶい黄黒		16世紀以降
	9			瓦質土器・磁鉢	—	染指による藤目3本単位	—	骨針多、砂粒(黒多・透多)	良好	5Y4/1 灰		
第16図	1	華民灰道跡 (第1地点)	トレンチ	縄文土器	—	縄文(R.L)、縄起線文、沈線文	—	砂粒(白多・黒多・透多)	良	にぶい黄黒～黒・黒	縄文時代中期後半「加曾利2式」	
	2			トレンチ	縄文土器	—	—	—	砂粒(白多・透多)	良好	黒灰・黒黒	縄文時代中期後半「加曾利2式」
	3			トレンチ	縄文土器	—	縄文(L.R)、沈線文	—	砂粒(白多・黒・透多)	良好	灰黄黒・灰黒	縄文時代中期後半「加曾利2式」

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調		備考
										(外面・内面)		
第16図	4	帯民炊遺跡 (第1地点)	トレンチ	縄文土器	—	縄文(丸)	—	余多、砂粒(白多)	良好	黒黒	縄文時代中期後半「加曾利E式」	
	5			縄文土器	—	縄文(棒状工具)、沈線文	—	砂粒(白・黒多・透)	良	にぶい黄緑・にぶい黄	縄文時代中期後半「加曾利E式」	
	6			縄文土器	—	縄文、沈線文	—	砂粒(白多・黒・透多)	良好	にぶい黄	縄文時代後期前半「加曾利E式」	
第19図	1	下尻句遺跡 (第1地点)	トレンチ	縄文土器	—	隆起線文	—	余多、砂粒(白多)	良好	黒黒	縄文時代中期後半「加曾利E式」	
	2			縄文土器	—	沈線文	—	砂粒(白・黒多・透)	良	にぶい黄緑・にぶい黄	縄文時代中期後半「加曾利E式」	
	3			縄文土器	—	沈線文	—	砂粒(白多・黒・透多)	良好	にぶい黄	縄文時代中期後半「加曾利E2式」	
第22図	1	高塚古墳群 (第1地点)	トレンチ	弥生土器	—	付加染第1種LⅡ+2条	—	砂粒(白・黒・透)	良好	にぶい黄緑～黒灰・にぶい黄緑	弥生時代後期	
	2			須恵器・高台付杯	底径(7.2) 器高(1.8)	底部回転・ヘラケズリ→高台彫付後ナデ	底径15%	長石・石英・チャート多量、骨針少量	硬質 型焼	10YR4/1 黒灰		
	3			須恵器・蓋	口径(13.4) 器高(2.8)	口内返し縁部、笠状に器高が高い。内面に重ね焼き痕跡あり	口径17%	長石・チャート細粒中量、黒色粒子少量	硬質 型焼	5Y5/1 灰		
	4			斜平瓦	全長(4.9) 重量70g	頸部を欠失。型焼きか1本後きか不明。瓦当面はケズリ後重傷あり。凹面調整痕あり	—	長石・石英・角閃石少量	中々 軟質	10YR/6 にぶい黄 橙		
第25図	1	竹ノ内遺跡 (第2地点)	トレンチ	組器・瓶 陶器食器	口径15.2 底径6.0 器高7.1	輪軸成形/色絵(緑)/骨付無施。外面口縁部二重周縁	1/2以下			瀬戸・美濃、1930代～1945年		
第33図	1	平塚遺跡 (第1地点)	トレンチ	縄文土器	口径(22.4) 器高(4.6)	—	口径10%	骨針、砂粒(白多・黒・透多)	良好	にぶい黄緑～黒灰・にぶい黄	縄文時代後期前半「加曾利E式」	
	2			縄文土器	—	縄文(LⅡ)、沈線文	—	砂粒(白多・黒・透多)	良好	にぶい赤黒・にぶい黄	縄文時代後期前半「加曾利E式」	
	3			縄文土器	—	縄文(LⅡ)、沈線文	—	砂粒(黒・透)	良好	橙・にぶい黄緑	縄文時代後期前半「加曾利E式」	
第36図	1	製遺跡 (第4地点)	トレンチ	縄文土器	—	縄文(LⅡ)	—	砂粒(白・透)	良好	橙・明赤黒	縄文時代後期前半「加曾利E式」	
	2			須恵器・無台付杯	口径(12.1) 底径(7.0) 器高3.4	口や頸部が低く、体部がハの字に広がる。底部回転・ヘラ切り→ヘラナデ。ヘラ記号を残す。二次底部面なし。	口径13% 底径12%	長石・石英・チャート・骨針	中々 軟質	2.5Y4/1 黒灰～7.5YR6/3 にぶい黄		
	3			須恵器・無台付杯	底径(7.8) 器高(2.9)	底部回転・ヘラ切り→ヘラナデ。ヘラ記号を残す。二次底部面なし。	底径38%	長石・石英・チャート細粒・骨針	硬質	2.5Y5/2 暗灰黄		
	4			須恵器・高台付杯	底径(8.5) 器高(2.5)	底部回転・ヘラケズリ。	—	長石・石英・チャート・骨針	硬質 型焼	2.5Y6/2 灰黄		
	5			須恵器・高台付杯	器高(1.5)	底部回転・ヘラケズリ。高台彫付(剝離)。	—	長石・石英・チャート・骨針	中々 軟質	2.5Y6/2 灰黄		
	6			須恵器・甕力	底径(12.2) 器高(2.4)	底部回転ケズリ後、高台彫付。ナデ調整。径が中々大きいので鑿の可能性が高い。	底径20%	長石・石英・チャート・骨針	硬質 型焼	N51 灰	木葉下産	
	7			須恵器・高盤	器高(5.7)	四方透し7内面に不明瞭なシボ模様。	—	長石・石英・チャート・骨針	硬質 型焼	5Y5/1 灰		
第39図	1	西原古墳群 (第6地点)	トレンチ	埴輪・円筒埴輪	—	外面はタテハケ。磨耗著しい。内面はココハケ。	—	長石・石英・チャート・角閃石細粒多量。スコリア少量	普通	10YR6/4 にぶい黄緑		
	2		トレンチ	埴輪・円筒埴輪	—	外面はタテハケ。内面は斜線模倣コビナデ。	—	長石・石英・チャート・角閃石細粒多量。スコリア少量	普通	5YR5/6 明赤黒		

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調		備考	
										(外面)	(内面)		
第39図	3	西原古墳群 (第6地点)	トレンチ4	埴輪・円筒埴輪	—	外面はタテハケ。内面はナデ。磨耗甚しい。	—	長石・石英・チャート・角閃石類多量。スコリア少量	普通	7.5YR6/6 紺			
	4		トレンチ3	埴輪・円筒埴輪	—	外面はタテハケ。内面はココハケ。	—	長石・石英・チャート・角閃石類多量。スコリア少量	良好	5YR5/4 に近い赤紺			
	5		トレンチ1	埴輪・円筒埴輪	—	外面は突帯貼付→ナデツケ。内面はココナデ。	—	長石・石英・チャート・角閃石類多量。スコリア少量	良好	5YR5/4 に近い赤紺			
	6		トレンチ3	埴輪・円筒埴輪	—	外面はタテハケ→突帯貼付→ナデツケ。内面はココナデ。	—	長石・石英・チャート・角閃石類多量。スコリア少量	良好	5YR5/4 に近い赤紺			
	7		トレンチ3	埴輪・円筒埴輪、 朝顔形方	—	外面はタテハケ後、上部横位ココズリ。内面はナデ。	—	長石・石英・チャート・角閃石類多量。スコリア少量	良好	5YR5/6 明赤紺			
	第42図		1	水戸城跡 (第2地点)	トレンチ1	棟瓦	全長(17.3) 厚さ1.9 重量1069g	板作り成形。文様部貼付/青海波文。文様内に条線による櫛目5本単位を三角パターン	—	白雲母	硬質	7.5Y4/1 灰～N2/黒	19世紀以降か
	2		法面表採		棟瓦	全長23.9 厚さ1.7 重量1249g	板作り成形。文様部貼付/青海波文。文様内に条線による櫛目5～6本単位/釘痕残存2ヶ所	—	青針、白雲母多、砂粒(透多)	硬質	N2/黒・5Y3/1 オリーブ黒～N2/黒	19世紀以降か	
3		丸瓦	全長(16.4) 厚さ1.9 重量915g		板作り・型張成形/外面縦ケズリ、内面布目	—	砂粒(白)	硬質	N3/明灰・5Y5/2 灰オリーブ～N3/黒灰				
4		軒丸瓦	重量195g		右巻き三つ巴文中心に墨線に珠文を配列	—	砂粒(白)	硬質	N3/明灰				
5		軒丸瓦	重量62g		右巻き三つ巴文	—	砂粒(白多・黒多・透多)	やや軟質	10YR7/4 に近い黒				
6		軒丸瓦	重量85g		右巻き三つ巴文	—	青針	硬質	N3/明灰・5Y4/2 灰オリーブ				
7		棟込瓦	全長15.6 外区径(8.6) 内区径(6.6) 重量284g		左巻き三つ巴文	—	青針、白雲母	硬質	5Y5/2 灰オリーブ～5Y/オリーブ黒				
8		軒椀瓦もしくは軒平瓦	全長(9.4) 厚さ1.8 重量476g		板作り・型当て・型押成形/均整草文	—	白雲母、砂粒(透)	硬質	N2/黒				
9		引籠椀瓦	全長(8.0) 厚さ1.7 重量322g		板作り成形/引籠椀	—	白雲母	硬質	7.5Y2/1 黒	近代			
第47図	1	米沢町遺跡 (第1地点)	トレンチ4	縄文土器	—		—	砂粒(黒・透)	良好	にふい・黄緑～黒紺・にふい・紺	縄文時代晩期前期「安行3a式」		
	2		工事の会	縄文土器	—		—	砂粒(黒・透)	良好	にふい・黄緑～黒紺・にふい・紺	縄文時代後期後葉「安行2式」～晩期前期「安行3a式」		
	3		工事の会	須恵器・陶	—			—	長石・石英・チャート・青針	硬質・堅硬	N51 灰	木炭土産	
	4		トレンチ3	土師質土器・内耳皿	—	外面に腐付着。	—	青針、砂粒(白多・黒多)	良好				

図版	番号	道跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調		備考
										(外面・内面)		
第51図	1	製道跡 (第3地点)	確 002 No.3	須恵系・無台付	口径 11.8 器高 4.4 底径 6.5	回転軸輪整形。体部下端及び底部は無彫部。底部回転ヘラ切り。ヘラ記号。	3/4	長石・石英・チャート・細粒・骨針	普通	5Y 6/2 灰オリーブ		木炭下産
	2		確 002 No.2	須恵系・有台付	口径 [23.0] 器高 4.3	ハの字状に外積。大振り。内面に沈線をもつ有台部からの変化か。高台端部はやや外反しておさまる。回転軸輪整形。内外面に強いロクロ目を遺す。底部は回転ケズリ。ヘラ記号を遺す。高台船付後接合部ナデ。	100%	長石・石英・チャート・細粒・骨針	硬質 彫織	7.5Y 6/1 灰		木炭下産
	3		確 002 No.1 ほか	土師系・有台付	口径 [26.7] 器高 5.6	高台は長くハの字状に膨らみ入る。体部の屈曲がやや緩く、口縁部は外積して比較的丸くおさまる。回転軸輪整形。底部回転ヘラケズリ。高台船付後接合部ナデ。口縁部外面から内面全体にかけて細かいミガキで断面を丁寧に仕上げた後黒色処理。	1/5	長石・石英・細粒多・スコリア・黒雲母	普通 やや 軟質	10YR 7/4 に近い 黄緑		在産
	4		確 005 No.5 ほか	須恵系・無台付	口径 [14.6] 器高 4.2	体部から緩やかにハの字にひろいて外積して伸び、口縁部でやや肥厚して丸くおさまる。高台付け根は沈線状に屈曲し、端部が丸く突出しておさまる。回転軸輪整形。内外面のロクロ目は平滑な器面調整によりナデ消される。底部回転ケズリ後高台船付。接合部回転ナデ。頸部直下は直線的に面取りされる。	2/3	長石・細粒	良好 硬質 彫織	2.5YR 7/1 灰白		陶内産
	5		確 005 No.1 ほか	須恵系・無台付	底径 [7.0] 器高 (2.3)	二次底部面をつくらず、屈曲する。回転軸輪整形。底部外面は回転ヘラ切り後ヘラナデ。体部内外面ナデ。	—	長石・石英・チャート・骨針	良好 硬質 彫織	7.5Y 5/1 灰		木炭下産
第52図	1	製道跡	確 005 No.4 ほか	土師系・費	口径 17.5 器高 (9.1)	胎土はやや軟っぽい。頸部にあまりしまりがなく、外反して口縁部に至り、丸くおさまる。口縁部～頸部ナデ。頸部外面ケズリ後一部細かいタテミガキ。	—	長石・石英・白雲母・細粒	普通 やや 軟質	7.5YR 6/6 橙		新治産力
	2		確 004・007 No.20,17 カ マナ	須恵系・無台付	口径 [14.3] 器高 5.0 底径 6.4	体部が広くハの字状にひろいて伸びる。重積きのため口縁部のみやや赤味がかり、還元が行き届かない。回転軸輪整形。回転ヘラキリ後ナゾリ。ヘラ記号あり。胎土粒粗遺す。	1/2	長石・石英・チャート・骨針	不良 軟質	2.5Y 5/2 暗灰黄		木炭下産
			確 007 No.20,17 カ マナ	須恵系・無台付	口径 [14.6] 器高 (4.2)	ハの字にひろく器形。回転軸輪整形。内外面のロクロ目をヘラナデで平滑に整える。	—	長石・石英・チャート・骨針	不良 やや 軟質	10YR 4/2 灰黄陶		

図版	番号	道跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調		備考
										(外面・内面)		
第52図	3	製道跡 (第3地点)	破 004 カマ ド	土師器・無台杯	口径 [13.2] 部高 4.4 底径 6.5	ハの字状に大きくひらく器形。口縁部は肥厚してやや内張っておさまる。回転輪軸形。回転ヘラ切り後ナゾリ痕を遺す。内面はナデのみでミガキが施されないが、焼成具合から土師器と判断。	—	長石・石英・チャート・細粒・骨針・黒雲母	普通 やや 軟質	5YR 6/6 橙	在地産	
	4		破 007 カマ ド No.12	土師器・無台杯	口径 [13.2] 部高 4.4 底径 6.5	底部は下部が内厚で、中位でやや薄く、口縁部へ向かって肥厚したまま丸くおさまる。ハの字状にひらく。底部は小さい。回転輪軸形。口縁部直下に粘土結輪軸が観察できる。外面ナデ。内面ナデ後ミガキを施し内面黒色処理。底部は回転ヘラ切り無調整。二次的に加熱を受けているため内面の黒色処理が削ぎている。	—	長石・石英・チャート・細粒・白雲母・スコリア	普通 やや 軟質	5YR 6/6 橙	在地産	
	5		破 004 No.6	土師器・小形甕	底径 [8.8] 部高 (8.9)	やや下腹の器形になる。底部は平底気味。粘土結輪軸形。胴部外面下平にはコケズリ。内面はナデ。	—	長石・石英・チャート・細粒・白雲母・スコリア	良好 やや 硬質	10YR 4/2 灰黄緑	在地産	
	6		破 004・007 ほか	土師器・甕	口径 [19.6] 部高 (20.0)	部厚が薄く精緻なつくり。口縁部は回転ナデ。口胴部が屈曲して上方へ突出。胴部外面の上半は強いオサエ痕が通り、下半はタケズリ後コケズリ。内面は上半コナデ。下半コナデ→タケナデ。	1/3	砂粒(白・黒・透)、チャート・スコリア・黒雲母	良好 やや 硬質	7.5YR 6/6 橙	在地系(常陸型) 模倣土師器類	
	7		破 007 No.1 ほか	須恵器・知指甕	口径 [13.2] 部高 (9.9)	やや楕円の器形。口胴部は上面に比線をもち、口縁部ごと内傾しておさまる。胴部外面には障灰がみられる。回転輪軸形。内外面ナデ。	下半部欠	砂粒(白・黒・透)、チャート、骨針	良好 硬質 型織	2.5YR 5/2 灰赤	木葉下産	
	第53図		1	破 007 No.4	瓦	全長 (24.6) 厚さ (1.0) 重量 699 g	凸面格子明き→横方向ヘラケズリ。凹面布目痕。	—	砂粒(白・黒・透)、チャート	硬質	7.5YR6/6 橙・ 2.5Y7/2 灰黄	
2		破 007 No.15	瓦	全長 (11.2) 厚さ (1.4) 重量 414 g	凸面ナデ。凹面ナデ	—	骨針、砂粒(白・黒・透)	硬質	7.5YR7/6 橙～ 2.5Y6/1 黄灰・ 7.5YR7/4 に近い 橙			
3		破 004 No.12	瓦	全長 (12.1) 厚さ (1.8) 重量 183 g	凸面横方向ヘラケズリ→縦方向ヘラケズリ。凹面布目痕。	—	砂粒(白・黒・透)	やや 硬質	2.5Y7/2 灰黄			
4		破 007 No.7	平瓦	全長 (9.3) 厚さ (2.0) 重量 331 g	凸面横明き。凹面布目痕。	—	骨針、砂粒(白・黒・透)	やや 硬質	5Y6/2 灰オリーブ	木葉下産		
5		破 005 No.18	平瓦	全長 (7.7) 厚さ (2.6) 重量 236 g	凸面格子明き→横方向ヘラケズリ。凹面布目痕。	—	砂粒(白・黒・透)、チャート	硬質	2.5Y7/2 灰黄	木葉下産		
第54図	6	破 004 No.1	平瓦	全長 (15.5) 厚さ (1.8) 重量 1104 g	凸面横方向ヘラケズリ・ナデ。凹面横方向ヘラケズリ・ナデ	—	骨針、砂粒(白・透)	硬質	7.5YR6/4 に近い 橙			

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調 (外面・内面)		備考
第54図	7	知通砂 (第3地点)	第007No.14	平瓦	全長 (16.5) 厚さ (1.6) 重量 499 g	凸面縦方向ヘラケズリ、凹面布目痕	—	砂粒 (白多・透多)	硬質	5Y7/1 灰白・10YR7/2 に近い黄緑		
	8		第007No.8	平瓦	全長 (28.5) 厚さ (2.0) 重量 632 g	凸面縦方向ヘラケズリ、凹面布目痕	—	砂粒 (白・黒・透)、チャート	硬質	7.5Y7/1 灰白	木炭下産物	
	9		第005No.11	平瓦	全長 (5.5) 厚さ (2.2) 重量 124 g	凸面格子印き、凹面布目痕	—	砂粒 (白)、チャート	硬質	2.5Y7/2 灰黄・2.5Y6/3 に近い黄	山田原産物	
	10		第005No.5	平瓦	全長 (5.8) 厚さ (2.4) 重量 193 g	凸面格子印き一横方向ケズリ、凹面布目痕	—	砂粒 (白多)	硬質	2.5Y5/2 灰黄		
第55図	11		第007No.5	平瓦	全長 (32.8) 厚さ (2.0) 重量 1279 g	凸面格子印き→2次焼成?、凹面布目痕、一部切斷用目付か	—	砂粒 (白多・透多)	中々軟質	10YR6/4 に近い黄緑		
第59図	1	台渡里施寺跡 (26次)	05N-T1-001	須恵器・無台坏蓋	幅径 3.4 器高 (2.8)	全体的にややドーム状を呈す。外面セピア色。つまみ上部のナシは工員使用か。端部処理が極めて精緻な扁平つまみである。回転軸輪整形。天井部は回転ケズリ後、つまみ筋付接合部を回転ナデす。	1/2	長石・石英・チャート・磁粒・骨針	良好硬質明緑	7.5Y4/1 灰		木炭下産
	2		05N-T1-004	須恵器・有台坏蓋	幅径 [15.6] 器高 (1.5)	裏和材が少なく、器壁が薄い。蓋面は滑らかで光沢感をもつ。全体的に扁平で、端部は折り返して垂直に立ち、硬味をおさめる。内面は回転ナデ後蓋面を平坦に整えるようにナデた擦痕がみられる。外面には濃緑色の輪が際下し、天井部の回転ケズリの痕跡を覆っている。	1/6	長石・砂粒	良好硬質明緑	2.5Y 6/1 黄灰		塩殻産
	3		05N-T1-001	須恵器・大形蓋?	幅径 [26.4] 器高 (4.1)	大形の蓋もしくは甕である。端部はおりかえりしてシャープなつくりである。外面全体に薄灰。回転軸輪整形。内面ラセンナデ。外面天井部回転ケズリ。垂ね焼きのため、内面のみいむゆるセピア色を呈す。	—	長石・石英・チャート・骨針	良好硬質明緑	7.5YR 4/2 灰緑		木炭下産
	4		05N-T1-001	須恵器・低脚坏	脚径 [8.0] 器高 (2.8)	器壁が薄く、脚部がシャープに突出する精巧なつくり。底部回転ヘラケズリ後、脚部筋付、接合部回転ナデ。内面は平坦にナデ調整。1994年調査(8次)B区2号溝出土土器に類似あり。	—	長石・石英・チャート・磁粒	良好硬質	7.5Y 3/1 オリーブ黒		木炭下産 中々軟質

図版	番号	道跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調		備考
										(外面・内面)		
第60図	1	台渡里廃寺跡 (26次)	05N-T4-004	土師器・坏	口径 [12.8] 器高 (2.8)	漆黒色。口縁部外側 に無段有縁ノ丸底形 態。体部は薄く、口縁 部で肥厚する。口縁部 外面から内面全体にか けて回転ナデを施す。 体部から底部にかけて の外面に小さい単位 の手持ちケズリを行い、 器面・器壁を平滑に整 える。	1/5	長石・石英・ スコリア	良好 やや 軟質	10YR 6/4 赤み、 黄緑	在地産	
	2		005N-T4- 004-8	土師器・坏	口径 [12.6] 器高 (3.4)	褐色系。口縁部外側ノ 無段有縁ノ丸底形態。 口縁部・底部内面はナ デ残穢かいミガキ。底 部外面は手持ちケズリ 残、ヘラナデで平滑に 整える。やや光沢感を もつ。	1/4	長石・石英・ チャート副産	良好 やや 軟質	5YR 6/8 橙	在地産	
	3		05N-T4- 004-8	土師器・坏	口径 [13.9] 器高 3.8	赤色系。口縁部外側ノ 無段有縁ノ丸底形態。 口縁部内面に沈線をも つ。やや外傾して膨ら む。口縁部および内面 全体ナデ。底部外面細 い手持ちケズリ。	1/6	長石・石英副 産・スコリア・ 白雲母	良好 やや 軟質	5Y 5/8 明赤陶	在地産	
	4		05N-T4-2- 004	須恵器・無台杯 身	口径 [14.8] 器高 4.3	外面に凹坑し。器形は やや扁平。口縁部はや や外反し、平坦面をも つ。体部に比して底部 はやや肉厚。回転軸輪 整形。底部回転ケズリ。 体部のナデは平滑で丁 彫。	2/3	長石・石英・ チャート副 産・骨針	良好 硬質 堅固	2.5Y 4/1 黄灰	木置下産	
	5		05N-T4- 004-5ほか	須恵器・有蓋小 杯身	口径 [9.4] 器高 3.1	口縁部は外傾しながら 立ち上がる。口縁部は 面取り。全体的に器壁 が薄くシャープ。回転 軸輪整形。体部はロク ロ目を平滑にナデ整え る。底部回転ヘラ切り 後手持ちヘラナデ。	1/3	長石・石英・ チャート副産	良好 硬質 堅固	5Y 5/1 灰	木置下産	
	6		05N-T4- 004-9	須恵器・短脚 壺?	口径 [13.4] 器高 (2.9)	口縁部は外傾しなが ら立ち上がる。器形は やや扁平。口縁部は 面取り。全体的に器壁 が薄くシャープ。回転 軸輪整形。体部はロク ロ目を平滑にナデ整え る。底部回転ヘラ切り 後手持ちヘラナデ。	—	長石・石英・ チャート副 産・骨針	良好 硬質 堅固	2.5Y 6/2 灰黄	木置下産	
	7		05N-T4- 004-6	須恵器・有台杯 蓋	口径 [14.8] 器高 (2.4)	天井部には濃緑色の自然 胎色が分厚くかかる。 おりかまし器部は内面 ぐに垂下する。回転軸 輪整形。天井部は回転 ケズリか。	—	長石・砂粒・ 黒色胎子	良好 硬質 堅固	10YR 6/1 黒灰	湖西産	
	8		05N-T4- 004-6	須恵器・有台 杯蓋	口径 [15.4] 器高 (4.1)	口縁部に向かって狭く 外傾して立ち上がる。 器部に強い稜をもち、 この付近まで回転ケズ リの痕跡が見よことか ら、高台器種と推定。 回転軸輪整形。回転ナ デは平滑でロクロ目の 痕跡はうすい。	—	長石・石英・ チャート副 産・骨針	良好 硬質 堅固	5Y 6/1 灰	木置下産	

図版	番号	道跡名	出土位置	種別・器形細別	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調		備考
										(外面・内面)		
第60図	9	台湾聖母寺跡 (26次)	05N-T4-004-8	須恵器・甕	口径117.21 器高7.3	口縁部は内外に近く突出してシャープにする。器壁はやや薄い。口縁部から頸部にかけてを回転軸離形。胴部は外面格子状。内面は当て具痕をナデ消す。頸部接合後は回転ナデ調整。胴西産を模倣したものか。	—	長石・石英・チャート細粒・黒色粒。骨針	良好 やや軟質	5Y 7/1 灰白	木炭下産	
第61図	1	台湾聖母寺跡 (26次)	05N-T4-005-4	須恵器・有蓋小坏蓋	口径110.9 器高2.8	つまみはシャープな宝珠状を呈し、天井部には降灰する。端部は丸みを帯び、かえりは短いながらもシャープに突出する。回転軸離形。天井部は回転ケズリ後つまみ筋付ナデ。	宛形	長石・石英・チャート細粒・黒色粒子	良好 硬質 堅緻	2.5 5/1 黄灰	木炭下産	
	2		05N-T4-005-2	須恵器・有台坏蓋	器高(2.0)	天井部はやや内厚だが、全体的にシャープで薄いつくり。つまみは宝珠状だがかなり扁平である。回転軸離形。内外面回転ナデ。天井部は回転ケズリ後つまみ筋付ナデ。調整は平滑丁寧。	1/2	長石粒・砂粒	良好 硬質 堅緻	5Y 6/1 灰	胴西産	
	3		05N-T4-005-4	須恵器・有蓋小坏身	口径9.6 器高3.4	口縁部はやや外反して立ち上がる。胴部はやや内厚。回転軸離形。底部回転ヘラキリ後内側をヘラナデ調整。底部中心は、ヘラキリ痕跡を遺す。	ほぼ宛形	長石・石英・チャート細粒	良好 硬質 堅緻	5Y 5/1 灰	木炭下産	
	4		05N-T4-005-6	須恵器・有台坏蓋	口径114.8 器高5.9	やや厚手で動滑なつくり。体部は真直ぐに外傾し、口縁部に至る。高台部は端部高脚に突出し、ハの字に踏ん張る形状。回転軸離形。底部回転ケズリ後高台筋付ナデ。体部・口縁部回転ナデ。足込みを手持ナデで平滑に整える。	ほぼ宛形	長石・石英・チャート細粒・黒色粒子	良好 硬質 堅緻	2.5Y 5/1 黄灰	木炭下産	
	5		05N-T4-005-7	須恵器・瓶脚小坏	口径10.7 器高5.0	有蓋小坏(坏G)に低い脚が付く。脚部は外方へ突出し、内側に接地面をもつ。回転軸離形。回転ナデ調整はロクロ目がつうすく平滑。脚部接合前に底部には回転ケズリが施される。	2/3	長石・石英・チャート細粒・骨針	良好 硬質 堅緻	5Y 4/1 灰	木炭下産	
	6		05N-T4-005-6	須恵器・有台坏蓋	口径7.2 器高(2.2)	器壁が厚く硬質である。高台端部は丸く突出する。回転軸離形。内面はラセンナデ。外面は内側を回転ケズリ後、高台筋付し接合部を回転ナデ。高台内底部中央には回転ヘラキリの痕跡を遺す。	高台片	長石・石英・チャート細粒	良好 硬質 堅緻	5Y 5/1 灰	木炭下産	

図版	番号	道跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調		備考
										(外面・内面)		
第61図	7	台湾里庵寺跡 (26次)	05N-T4- 005-7	須恵系・高脚 碗?	口径 [13.0] 器高 (4.5)	やや厚手で軽薄なつくり。口縁部はやや外反気味。回転軸線型。ロクロ口を残さず平直に回転ナデ。No.14と同一個体か。	—	長石・石英 粒	焼成 普通 やや 軟質	2.5Y 7/1 灰白	木葉下産 (山田 窯々)	
	8		05N-T4- 005-7	須恵系・高脚碗	器高 (8.3) 口径 [10.2]	やや厚手で軽薄なつくり。脚内部にシボリ面を遺す。回転軸線型。製 4501 と同一個体か。	脚部 1/2	長石・石英 粒	焼成 普通 やや 軟質	2.5Y 7/1 灰白	木葉下産 (山田 窯々)	
	9		05N-T4- 005-7	土師器・小杯	口径 [10.8] 器高 (3.5)	漆黒色。口縁部内傾 / 有段 / 丸底形。器壁は厚いが、精選された胎土をもつ。底部は手持ケズリで口縁部および内面はナデ。	—	長石・石英・ 黒雲母微粒	焼成 良好 やや 軟質	10YR 7/4 に近い 黄緑		
	10		05N-T4- 005-7	土師器・小杯	口径 [11.6] 器高 (2.7)	漆黒色。口縁部内傾 / 有段 / 丸底形。やや器壁が厚いが、精選された胎土で丁寧につくられる。底部手持ケズリ。口縁部および内面はナデ。	—	長石・石英・ 黒雲母微粒・ スコリア	焼成 良好 やや 軟質	10YR 7/3 に近い 黄緑		
	11		05N-T4- 005-7	土師器・杯	口径 [13.8] 器高 (3.5)	漆黒色。口縁部内傾 / 有段 / 丸底形。器壁が厚いが、精選された胎土をもつ。底部は手持ケズリで内外面はナデ。	—	長石・石英・ 黒雲母微粒	焼成 良好 やや 軟質	7.5YR 5/4 に近い 黄緑		
	12		05N-T4- 005-3	土師器・杯	口径 [13.0] 器高 (2.3)	漆黒色。口縁部内傾 / 有段 / 丸底形。器壁が薄く、丁寧にシャープなつくり。精選された胎土をもつ。底部手持ケズリ。口縁部および内面はナデ。	—	長石・石英・ 黒雲母微粒	焼成 良好 やや 軟質	7.5YR 7/6 碧		
	13		05N-T4- 005-7 ほか	土師器・甕	器高 (11.8)	脚部直下に段を形成する。胴部外面上位をコケケズリ後、最大径付近を長くタチケズリし、下位を斜方沖ヘケズリし、膨える。内面は、太い単位の縦位にナデ。口縁部欠。縞密な胎土。	脚部 1/2	長石・石英・ スコリア	焼成 普通 やや 軟質	10YR 6/3 に近い 黄緑	在地産	
第62図	1	台湾里庵寺跡 (26次)	05N-T5- 001-4	須恵系・有蓋小 杯蓋	口径 [10.6] 器高 2.7	やや厚小で軽薄なつくり。端部は折り返され、かえりが短く突起する。つまみは扁平だが、宝珠形の痕跡を止める。回転軸線型。3段の回転ケズリ後つまみ部付回転ナデ。	1/2	長石・石英・ チャート細粒	焼成 良好 硬質 型織	5Y 5/1 灰	木葉下産	
	2		05N-T5- 001-26 ほか	須恵系・有蓋小 杯蓋	口径 [11.9] 器高 (2.7)	器高が高く肉厚。かえりは長く鋭重。回転軸線型。天井部は2段の回転ケズリ後、つまみ部付回転ナデ。蓋 No.57 とよく類似する。同工品か。	1/2	長石・石英・ チャート細 粒・骨針	焼成 良好 硬質 型織	2.5Y 4/1 黄灰	木葉下産	

図版	番号	道跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成 (外面・内面)	色調		備考
										外面	内面	
第62図	3	台渡里庵寺跡 (26次)	05N-T5-001-10	須恵期・有蓋小 坏蓋	口径 112.0 器高 3.6	器壁が薄く丁寧なつくり。つまみは宝珠状を見せる。端部は直ぐぐ外折し、かえりは短いがシャープにつく。回転軸輪整形。天井部は3段の回転ケズリを備す。つまみ取付後ナズ。	ほぼ完形	長石・石英・チャート細粒・骨針	焼成不良 やや軟質	2.5Y 5/2 黄灰黄	木葉下産	
	4		05N-T5-001-244	須恵期・有蓋小 坏蓋	口径 11.7 器高 3.8	外面全体に濃緑色の自然釉が付着。扁平な宝珠状のつまみをもち、端部・かえりはシャープで丁寧なつくり。回転軸輪整形。内面にはラセンナズ。天井部には回転ケズリ。体部中に凹みをもつ。	ほぼ完形	長石・石英・チャート細粒	焼成良好 硬質 堅緻	5Y 5/1 灰	木葉下産	
	5		05N-T5-001-22 ほか	須恵期 有蓋小坏蓋	口径 11.7 器高 3.8	鈍重なつくりである。つまみは宝珠状だが扁平でシャープさに欠ける。折り返しのような端部に太いかえりがつく。回転軸輪整形。外面の回転ケズリは粗い。内面はラセンナズ。	2/3	長石・石英・チャート細粒	焼成良好 硬質 堅緻	2.5Y 4/1 黄灰	木葉下産	
	6		05N-T5-001-22 ほか	須恵期・有蓋小 坏蓋	口径 11.8 器高 3.7	器高が高く肉厚。つまみはやや扁平だが宝珠形の痕跡を止める。かえりは長く鈍重。回転軸輪整形。天井部は3段の回転ケズリ後、つまみ取付回転ナズ。蓋 Na 64 の同工品か。	ほぼ完形	長石・石英・チャート細粒 多量、骨針	焼成良好 硬質 堅緻	2.5Y 4/1 黄灰	木葉下産	
	7			須恵期・有蓋小 坏蓋	口径 11.7 器高 3.0	天井部には分厚く隆起し、窓の小穴が付着。端部・かえりはシャープで、全体的に薄い。宝珠状のつまみをもつ。回転軸輪整形。天井部回転ケズリ。内面ラセンナズ。	2/3	長石・石英・チャート細粒	焼成良好 硬質 堅緻	2.5Y 5/1 黄灰	木葉下産	
	8		05N-T5-001-64	須恵期・有蓋小 坏蓋	口径 [12.8] 器高 2.6	つまみを欠失。端部・かえりは薄くシャープで丁寧なつくり。回転軸輪整形。天井部の回転ケズリ調整を確かに止める。	1/3	長石・石英細粒多量、白雲母	焼成不良 やや軟質	5YR 4/1 黄灰	新治産	
	9		05N-T5-001-97	須恵期・有蓋小 坏蓋	口径 [11.4] 器高 3.2	外面全体に濃緑色の自然釉が付着。扁平なつまみをもち、全体的に器壁が厚く鈍重で、かえりもシャープさに欠ける。回転軸輪整形。天井部回転ケズリ。	1/2	細かへ長石・砂粒	焼成良好 硬質 堅緻	5Y 7/1 灰白	瀬西産	
	10		05N-T5-001-186 ほか	須恵期・有蓋小 坏身	口径 10.6 器高 3.7	シャープな器形でやや丸底形。回転軸輪整形。体部の口クロ目は平滑にナズ消される。底部回転へう切り無調整。粘土層が付着する。	2/3	長石・石英・チャート細粒・黒色粒子	焼成良好 硬質 堅緻	2.5Y 5/1 黄灰	木葉下産	

図版	番号	道跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調		備考
										(外面・内面)		
第62図	11	台湾里庵寺跡 (26次)	05N-T5- 001-1	須恵器・有蓋小 坏身	口径 [11.0] 器高 [4.4]	体部下端で屈曲し、外 傾して口縁部に至る。 回転軸輪郭形。体部内 外面はロクロ目の目立 たない平坦なナデ。底 部は回転ケズリ調整。	1/2	長石・石英の 細粒	焼成 普通 やや 軟質	2.5YR 7/2 灰黄	木葉下産 (山田 窯カ)	
	12		05N-T5- 001-193	須恵器・有蓋小 坏身	口径 [10.7] 器高 3.4	体部・口縁部はやや内 厚なつくり。体部はや やハの字に外傾して立 ち上がる。回転軸輪郭 形。体部のナデはロウ ロ目なく平滑。底部は 回転ヘラ切り無調整で 体部下端に粘土柱の痕 跡を遺す。	2/3	長石・石英の 粗い粒	焼成 良好 やや 軟質	5Y 4/1 灰	新治産カ	
	13		05N-T5- 001-157	須恵器・有蓋小 坏身	口径 [11.0] 器高 3.4	やや扁平な器形。平底 形。回転軸輪郭形。 体部のロクロ目は平滑 にナデ消され。底部は 回転ヘラ切り後、回転 ナデ。	1/3	長石・石英・ チャート細粒	焼成 良好 硬質 堅緻	5Y 5/1 灰	木葉下産	
	14		05N-T5- 001-1	須恵器・有蓋小 坏身	口径 9.2 器高 3.5	回転軸輪郭形。内面は ロクロ目の目立たない 平坦なナデ。外面には ロクロ目を明確に遺 す。底部回転ヘラ切り 後、手持ヘラナデカ。	1/2	長石・石英 粒・白雲母微 粒	焼成 良好 硬質 堅緻	2.5Y 6/1 黄灰	新治産カ	
	15		05N-T5- 001-4ほか	須恵器・有蓋小 坏身	口径 [8.4] 器高 3.3	かなり薄小化した法 量。回転軸輪郭形。体 部のナデはロクロ目を 遺す。底部は回転ケズ リを2段階し、その調 整は極めて丁寧。	1/4	長石・石英・ チャートの細 粒・骨針	焼成 良好 やや 軟質	5YR 3/1 黒褐	木葉下産	
	16		05N-T5- 001-1	須恵器・無脚小 坏	器高 [0.8]	回転軸輪郭形。外面は 回転ケズリ、脚接合後 ナデ。脚部内面は切り 貫きナデ。内面はラセ ンナデ。	底部のみ	長石・石英・ チャート細粒	焼成 良好 硬質 堅緻	5Y 5/1 灰	木葉下産	
	17		05N-T5- 001-88	須恵器・長頸瓶	頸径 [5.6] 器高 [6.8]	内面に濃緑色の自然釉 が飛散する。回転軸輪 郭形。シボリ痕跡は認 められない。	頸部 1/2	長石細粒・砂 粒・黒色粒子	焼成 良好 硬質 堅緻	5Y 7/1 灰白	新西産	
	18		05N-T5- 001-1ほか	須恵器・無台杯 蓋	口径 [13.5] 器高 4.9	器壁が薄く丁寧なつ くり。口縁部は内側へ曲 く折り込まれ、かえり の退化形部のような なる。回転軸輪郭形。天 井部は回転ケズリを遺 す。	2/3	長石・石英・ チャート細 粒・骨針	焼成 良好 硬質 堅緻	5Y 5/1 灰	木葉下産	
	19		05N-T5- 001-175ほ か	須恵器・有台杯	口径 [13.8] 器高 4.8	器壁が薄くシャープ なつくり。口縁部外面 に沈線をもち、高台端 部は外方へ突出する。 回転軸輪郭形。体部は 丁寧なナデを遺し、ロ クロ目がみられない。 底部は回転ケズリ。高 台接合後ナデ。No.43 高台は杯と同工品カ。	3/4	長石・石英・ チャート細 粒・骨針	焼成 良好 硬質 堅緻	2.5Y 5/3 黄灰	木葉下産	

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調		備考
										(外面・内面)		
第62頁	20	台湾寺庵寺跡 (26次)	05N-T5- 001-184	須恵器・有台杯	口径 [13.8] 器高 4.8	器壁が薄くシャープな つくり。口縁部外面に 沈線をもち、高台端部 は外方へ突出する。回 転軸輪整形。体部は丁 取な子デを施し、ロク ロ目がみられない。底 部は回転ケズリ、高台 接合後ナデ。No.42 高 台杯と同工品か。	1/2	長石・石英・ チャート	焼成 普通 やや 軟質	2.5Y 6/2 灰黄	木葉下産	
	21		05N-T5- 001-169 ほか	須恵器・有台杯	口径 14.8 器高 4.6	肉厚で鈍重なつくり。 体部は強く外傾し口縁 部に至る。高台唇付は 凹み、端部は突出する。 回転軸輪整形。底部 回転へつ切り後高台貼 付ナデ。内面にクレー ター状刷毛。	100%	長石・石英・ チャート	焼成 良好 硬質 堅緻	5Y 5/1 灰	木葉下産	
	22		05N-T5- 001-65 ほか	須恵器・有台杯	器高 12.6 台径 8.2	高台は唇付に凹みをも ち、幅広く、端部は外 方へ突出。回転軸輪整形。 底部は回転ケズリ後高 台唇付ナデ。	体部欠	長石・石英・ チャート 釉・骨針	焼成 良好 硬質 堅緻	2.5Y 6/2 灰黄	木葉下産	
	23		05N-T5- 001-98	須恵器・高杯	口径 12.7 器高 10.2	器部下唇に沈線を有す る。杯部はやや深身で 筒様式の高脚杯を模し たものか。回転軸輪形 整形。杯底を回転ケズ リ後、別作りの脚部を 結合、凹面をナデ調整。	脚・口縁 一部欠	長石・石英	焼成 良好 硬質 堅緻	2.5Y 4/1 灰	木葉下産カ	
	24		05N-T5- 001-16	須恵器・圓筒 甕	脚径 [16.4] 器高 14.3	縦長方形で通しと1条の 筋み目が交互に配列さ れる。これらの下端に 1条の沈線。その直下 に凸帯を施す。脚端 部は突出し、唇付には 凹みをもつ。通し内側 の筋線は面取りが施さ れ、シャープで丁寧な つくり。回転軸輪整形。	—	長石・石英・ チャート 釉・骨針	焼成 良好 硬質 堅緻	10YR 4/1 黒灰	木葉下産	
第63頁	25		05N-T5- 001-256	須恵器・高台杯	口径 [16.8] 器高 6.9	器壁は厚く、鈍重だが、 丁寧なつくり。回転軸 輪整形。体部上平付近 まで3段にわたってケ ズリ調整し、体部上段 で輪をなす。高台唇付 後の調整がはく、胎土 筋跡が遺る。釉をもち、 高台端部が張り出すこ とから金属屑模様の高 台説と理解した。	1/2	長石・石英・ チャート	焼成 良好 硬質 堅緻	2.5Y 6/2 灰黄	木葉下産 (山田 宮産カ)	
	26		05N-T5- 001-206 ほか	須恵器・知脚盤	口径 19.1 器高 7.1	肉厚で鈍重なつくり。 口縁部は外傾し丸く おさまる。器端部は下 方へシャープに突出す る。回転軸輪整形。底 部外面回転ケズリ、脚 部接合後回転ナデ。	ほぼ完形	長石・石英・ チャート	焼成 良好 硬質 堅緻	5Y 4/1 灰	木葉下産	

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調		備考
										(外面・内面)		
第63頁	27	台湾聖母寺跡 (26次)	05N-T5-001-47	須恵器・知脚瓶	器高 11.5	回転輪軸型。遺存部外面は回転ケズリ後ナデ。脚部接合面を遺す。内面はラセンナデ。	脚・口縁欠	長石・石英・チャート細粒	焼成良好 硬質 堅緻	7.5Y 6/1 灰	木炭下産	
	28		05N-T5-001-81	須恵器・知脚瓶	口径 20.6 器高 6.2	器壁が薄く全体的にシャープなつくり。回転輪軸型。器面全体を丁寧にナデ。口縁口目を看取できない。底部外面に僅かに脚部接合面を遺す。脚部内面は工具による割り貫きか。	口縁 2/3 欠	長石・石英・チャート細粒	焼成良好 硬質 堅緻	5Y 7/1 灰白	木炭下産	
	29		05N-T5-001-1	須恵器・知脚瓶	口径 [22.9] 器高 13.9	丁寧だが真直なつくり。回転輪軸型。底部外面は回転ケズリ。脚部接合後回転ナデ。内面はオサエ後手持ナデ。	口縁 1/5 遺存	長石・石英・チャート細粒	焼成良好 硬質 堅緻	2.5Y 5/1 黄灰	木炭下産	
	30		05N-T5-001-287	須恵器・知脚瓶	器高 12.8	回転輪軸型。外面は回転ケズリ。脚部接合ナデ。内面はオサエ後手持ナデ。	脚・口縁欠	長石・石英・チャート細粒	焼成良好 硬質 堅緻	5Y 5/1 灰	木炭下産	
	31		05N-T5-001-104	須恵器・大甕	口径 19.0 器高 6.1	体部下位に明確な稜をもち、口縁部は内湾しながら立ち上がる。口内面はやや膨らみをもつ。回転輪軸型。体部は内外面共に口縁口の薄い平滑なナデが施され、体部下端には回転ケズリ調整が加えられる。高台部極か。	1/6	長石・石英・チャート細粒・骨針・黒色粒子	焼成良好 硬質 堅緻	5Y 6/1 灰	木炭下産	
	32		05N-T5-001-107	土師器・甕	口径 [18.2] 器高 6.5	濃褐色。胴部微凹面輪。口縁部外面に顕著な輪軸の2条比輪を繞し、口内面は玉縁状に僅かに膨らむ。体部から底部にかけての外面を丁寧にナデで丸みを帯びた器形に調整している。器壁は極めて薄い。内外面は、乾燥段階で極めて細かくミガキが施されているようで、光沢感をもつがミガキ単位は不明である。	1/4	長石・石英細粒・スコリア	焼成良好 やや軟質	10YR 6/4 に近い黄橙		
	33		05N-T5-001-203	土師器・小甕	口径 [11.2] 器高 3.3	赤色系。口縁部直立/無段有稜/平底形。口縁部ナデ。底部外面細かいケズリ。内面ナデ。	1/2	長石・石英細粒・スコリア	焼成良好 やや軟質	2.5YR 5/8 明赤紅	北武蔵産?	
	34		05N-T5-001-211 ほか	土師器・小甕	口径 11.2 器高 4.0	赤色系。口縁部外直/有段/丸底形。やや内厚で鈍重。口縁部ナデ。底部外面ケズリ。内面ナデ。底部内面にクレーター状割線。	3/4	長石・石英・チャート細粒・スコリア	焼成普通 やや軟質	2.5Y 5/6 明赤紅		

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調		備考
										(外面・内面)		
第63頁	35	台湾里麻寺跡 (26次)	05N-T5-001-1	土師器・小碗	口径 11.4 器高 3.7	赤色系。口縁部直立／無段有縁／丸底形態。口唇部内面は面取りが施され、断面は小さい三角形になる。外面は口縁部ナズ。底部・底部ケズリ後縁かくミガキが施される。内面はナズ後放射状明文が施される。	1/2	長石・石英・チャート細粒・スコリア	焼成 良好 やや 硬質	5YR 5/8 明赤褐		
	36		土師器・小杯	口径 11.4 器高 4.1	濃紫色系。口縁部直立／無段有縁／丸底形態。口縁部ナズ。底部外面ナズ。内面ナズ。外面の縁直下に粘土輪襷。	1/3	長石・石英・チャート細粒・スコリア	焼成 良好 硬質	7.5YR 2/1 黒			
	37		土師器・小杯	口径 [12.4] 器高 4.4	濃紫色系。口縁部直立 局部外反／無段有縁／丸底形態。口縁部は玉縁状に膨らむ。底部は外面ケズリ。内面ナズ。	1/3	長石・石英・チャート細粒・スコリア・白雲母	焼成 良好 やや 軟質	10YR 4/1 褐灰			
	38		土師器・小碗	口径 11.8 器高 4.4	赤色系。肉厚で底重なつくり。いびゆる手摺土器を思わせる。断面の割線が密しく、断面は困難。外面はケズリ。内面および口縁部はナズ調整だろう。	ほぼ完形	長石・石英・チャート細粒・スコリア・骨針	焼成 普通 軟質	5Y 5/6 明赤褐			
	39		土師器・小杯	口径 [12.2] 器高 3.6	赤色系。口縁部直立／無段有縁／丸底形態。比較的シャープなつくり。口縁部断面は三角形。底部外面はケズリ。内面はナズ。	1/4	長石・石英・チャート細粒・スコリア	焼成 良好 やや 軟質	5YR 5/6 明赤褐			
	40		土師器・小杯	口径 11.6 器高 4.3	濃紫色系。口縁部外反／無段有縁／丸底形態。口唇部はやや内屈して内面に沈線をもつ。口縁部ナズ。底部外面ケズリ。内面ナズ。	1/3	長石・石英・チャート細粒・スコリア	焼成 良好 やや 軟質	7.5YR 2/1 黒			
	41		土師器・皿	口径 [15.0] 器高 3.5	褐色系。扁平な器形で器壁は肉厚。口唇部はシャープに尖り。口縁部断面は三角形におさまる。口縁部ナズ。底部外面ケズリ。内面ナズ。外面に粘土輪襷。	2/3	長石・石英・チャート細粒・スコリア・黒雲母	焼成 良好 やや 硬質	7.5YR 5/4 に近い 期			
	42		土師器・小杯	口径 9.8 器高 3.7	赤色系。口縁部直立／無段有縁／丸底形態。口縁部ナズ。底部外面ケズリ。内面はナズ。内面には工具痕が沈線状に遺されている。外面の縁直下に粘土輪襷。	1/2	長石・石英・チャート細粒・スコリア・黒雲母	焼成 良好 やや 硬質	5YR 5/6 明赤褐			
	43		土師器・小杯	口径 9.2 器高 3.1	濃紫色系。口縁部直立／無段有縁／丸底形態。口唇部は玉縁状に膨らむ。口縁部ナズ。底部外面は幅状なケズリ。内面はナズ。	2/3	長石・石英・チャート細粒・スコリア	焼成 良好 やや 軟質	10YR 3/1 黒褐			

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調		備考
										(外面・内面)		
第63頁	44	行渡坐楽寺跡 (26次)	05N-T5- 001-5 ほか	土師器・小皿	口径 [11.8] 器高 3.1	褐色系。浅身で丸底形 皿。器壁は薄くシャー ープなつくり。口縁部の 内側への屈曲は畿内様 式の精緻か。口縁部お よび底部内面のナデに は光沢をもち、乾燥段 階での精緻なミガキを 思わせる。底部外面の ケズリは輪縁。	1/2	長石・石英・ チャート 細 粒・スコリア・ 黒雲母	焼成 良好 やや 硬質	7.5YR 5/6 明褐色		
	45		05N-T5- 001-4 ほか	土師器・小皿	口径 12.0 器高 3.1	赤色系。狭小な底部か ら斜めに立ち上がり、 口縁部は内屈しおさ まっ、内面に輪縁を もつ。口縁部ナデ。底 部外面ケズリ。内面 ナデ放射状胡文を備 す。	1/3	長石・石英 粒・スコリア 中	焼成 良好 やや 硬質	2.5YR 5/8 明赤褐色	北武蔵産?	
	46		05N-T5- 001-52	土師器・皿		褐色系。扁平な器形で 器壁は肉厚。口縁部は ややシャープに尖って おさまる。口縁部ナデ。 底部外面をケズリ。内 面ナデ後胡文が備さ れる。内面にはクレー ター状筋線。外面には 光沢感があり。乾燥後 にミガキが備された可 能性がある。	1/4	長石・石英 粒・スコリア	焼成 良好 やや 硬質	5YR 3/1 黒褐色		
	47		05N-T5- 001-255 ほか	土師器・皿	口径 [16.0] 器高 3.0	赤色系。やや肉厚だが 精巧なつくりをする。 全体はやや楕円状に歪 みをもつ。内外面とも に丁寧なミガキ調整 が施される。つまみ上 部は一方向ミガキ。天 井部にはミガキ前の回 転ケズリの筋線を止め る。内面は放射状胡文 のミガキ。	1/3	長石・石英 粒・黒色粒子	焼成 良好 硬質	2.5YR 5/8 明赤褐色		畿内産系
第64頁	48		05N-T5- 001-102	土師器・小形甕	口径 [14.0] 器高 9.5	口縁部は屈曲・外反し て立ち上がる。外面ケ ズリ。内面ナデ。内面 のときに頸部付近にコ ガが分厚く付着する。	1/8	長石・石英・ 白雲母	焼成 良好 普通	10YR 4/3 に近い 黄褐色		新治産?
	49		05N-T5- 001-4 ほか	土師器・小形甕	口径 [13.8] 器高 (7.5)	頸部最大径付近からや や内傾して立ち上がり、 口縁部が玉縁状に 丸まっておさまる。口 縁部には沈線を有す る。明確な頸部をもた ない。外面ケズリ。内 面ナデ。	—	長石・石英・ チャート 細 粒・スコリア・ 骨針	焼成 良好 やや 硬質	7.5YR 5/4 に近い 褐色		右地産精製
	50		05N-T5- 001-271 ほか	土師器・小形甕	口径 [14.0] 器高 14.7	口縁部は外反し、口縁 部が突帯状になる。胎 土は精選されている。 外面はケズリ。内面は ナデ。ともに丁寧に調 整されるが、粘土結核 積層を遺す。底部は平 底状になり、ゆるいケ ズリを備す。	2/3	長石・石英・ チャート 細 粒・スコリア	焼成 良好 やや 軟質	10YR 6/4 に近い 黄褐色		

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調		備考
										(外面・内面)		
第64頁	51	台湾聖母寺跡 (26次)	05N-T5- 001-71 ほか	土師器・小形甕	口径 [13.8] 器高 16.0	口縁部は外傾しながら立ち上がり、頸部直下に段を形成する。器面の摩耗が激しい。外面ヨコケズリ、内面ヨコナデ。底部外面はケズリ調整がされるが一部に木炭層を遺す。胴部下端にタール状の付着を観察できる。	1/2	長石・石英・スコリア・黒雲母	焼成 普通 やや 軟質	10YR 5/2 灰黄緑		
	52		05N-T5- 001-120	土師器・小形甕	口径 [13.6] 器高 9.8	頸部が肥厚して口縁部が外反する。口脣部は膨らんで突出する。外面のケズリは口縁部外面のナデにまで及ぶ。内面ナデ。頸部に粘土結核積層を遺す。	1/8	長石・石英・黒・白雲母	焼成 良好 やや 硬質	10YR 4/2 灰黄緑		
	53		05N-T5- 001-150	土師器・小形甕	口径 [12.4] 器高 7.0	頸部に段をもつ。口縁部がやや内傾気味に直口する。外面はハケメ調整。内面は斜方向のナデ。	—	長石・石英・黒・白雲母	焼成 良好 やや 硬質	7.5YR 7/6 橙	在地産東北系カ	
	54		05N-T5- 001-4	土師器・小形甕	器高 14.0	外面はハケメ調整。内面は斜方向のナデ。	—	長石・石英・チャート・黒・黒雲母・スコリア	焼成 良好 やや 軟質	7.5YR 7/6 橙	在地産東北系カ	
	55		05N-T5- 001-4	土師器・小形甕	器高 13.1	外面はハケメ調整。内面は斜方向のナデ。	—	長石・石英・チャート・黒・黒雲母・スコリア	焼成 良好 やや 軟質	5YR 5/4 に近い赤	在地産東北系カ	
	56		05N-T5- 001-41	土師器・小形甕	器高 13.4	外面はハケメ調整。内面は斜方向のナデ。	—	長石・石英・チャート・黒・黒雲母・スコリア	焼成 良好 やや 軟質	5YR 5/4 に近い赤	在地産東北系カ	
	57		05N-T5- 001-1 ほか	土師器・小形甕	器高 (7.7)	丸底形態である。器壁がやや厚く鈍重である。外面を細いケズリで調整。内面はナデ。	1/4	長石・石英・チャート・黒・スコリア	焼成 良好 普通	5YR 4/4 に近い赤		
	58		05N-T5- 001-236	土師器・小形甕	口径 17.8 器高 14.9	上庄で全体の器形がやや歪む。口縁部内面と外面全体に赤彩の痕跡あり。胴部外面は斜下方へケズリ、内面はヨコナデ。胴部外面に黒炭が観察できる。	完形	長石・石英・チャート・黒・骨針	焼成 良好 やや 軟質	10YR 6/4 に近い黄緑		
	59		05N-T5- 001-199	土師器・小形甕	口径 [15.0] 器高 9.7	丁寧なつくり。口脣部外面に沈線をもつ。短い口縁部が傾向外反して伸びる。胴部は寸胴形。外面にケズリ、内面にナデを施すが、部分的に粘土結核積層をよく止める。	1/8	長石・石英・黒雲母・スコリア	焼成 良好 普通	10YR 6/3 に近い黄緑	在地産精製。	
	60		05N-T5- 001-182	土師器・小形甕	口径 8.3 器高 9.3	焼熟のためか、器面が荒れて摩耗しており、調整の詳細を観察することはできない。やや下膨れの器形で、外面のケズリが二次底部面を形成している。外面と内面の一部にスガが付着。	1/4	長石・石英・黒・黒雲母・スコリア	焼成 良好 やや 軟質	10YR 5/3 に近い黄緑		

図版	番号	道跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調		備考
										(外面・内面)		
第64図	61	行渡里廃寺跡 (26次)	05N-T5- 001-100	土師器・小形甕	底径 5.3 器高 (7.7)	胴部がやや丸みを帯びる器形。胴部外面はケズリ、下縁をヨコナデし、底部が突出する器形。底部はケズリ調整だが、丸底形態。胴部内面は、ヨコナデによって器面が調整される。内面にコガのような痕跡が付き。	1/2	長石・石英・チャート	焼成 不良 軟質	10YR 6/6 赤橙		
第65図	62		05N-T5- 001-4ほか	土師器・小形甕	頸径 [15.9] 器高 (15.6)	胴部直下をタテケズリし、段を形成する。胴部外面は横方へへラナデが施される。内面もヨコナデを主とする。底部はややゆるまる器形となる。	胴部欠 底部欠	長石・石英・スコリア・黒岩母	焼成 普通 やや 軟質	10YR 6/3 に近い 黄橙		
	63		05N-T5- 001-96ほか	土師器・甕	口径 16.5 器高 (10.9)	口内面丸く縮らみ、その直下に化粧状の凹みをもつ。胴部外面は斜方にケズリを施した後、弱いナデを施す。胴部外面は胴部に向かってケズリが施され、胴部直下に工具痕を遺す。口縁部内面はナデ。胴部内面では面取りが施され、胴部内面はナデによる器面調整がされる。	胴部欠	長石・石英・細粒・スコリア	焼成 普通 やや 軟質	7.5YR 7/4 に近い 橙		
	64		05N-T5- 001-20ほか	土師器・甕	胴径 [22.4] 器高 (14.1)	やや丸みを帯びる器形。胴部付近より上と底部を欠す。外面上部は上方へ向かってケズリ調整。下部は下方へ向かってケズリ調整。内面は主にヨコナデ。	胴部欠	長石・石英・チャートの細粒・スコリア	焼成 普通 やや 軟質	10YR 6/3 に近い 黄橙		
	65		05N-T5- 001-130ほか	土師器・甕	底径 8.5 器高 (10.2)	外面は、胴部・底部共にケズリ調整。底部はやや平底。内面はランダムなナデによる調整。	1/3	長石・石英・チャート・スコリア・骨針	焼成 良好 やや 軟質	10YR 7/4 に近い 黄橙		
第66図	66		05N-T5- 001-54ほか	土師器・甕	底径 7.7 器高 (8.4)	外面上部は上方へケズリ。下部は斜下方へケズリ。底部もケズリ。内面は主にヨコナデ。	1/4	長石・石英・チャート・骨針	焼成 普通 やや 軟質	7.5YR 4/2 灰和		
	67		05N-T5- 001-94ほか	道忠器・甕	器高 (16.9)	胴部のみ破片。内面・外面とも円規調整技法の痕跡をよく遺す。外面は左周りに平行タタキを施し、内面は同心行文の当て具痕を、閉塞円輪部分は、オサエ痕跡を明瞭に遺す。	胴部欠	長石・石英・チャート・細粒	焼成 良好 硬質 明確	5Y 5/1 灰	木炭下産	
	1		05N-T5- 004-3	土師器小皿・(かわらけ)	口径 [7.8] 器高 2.2 底径 3.9	口縁部がやや肥厚し丸くおさまる。口縁部にスス付き。粗明面が、回転輪軸型形。底部回転糸切り。	1/2	長石・石英・細粒・スコリア・黒岩母	良好 やや 軟質	10YR 7/4 に近い 黄橙	在地産	

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形		法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調		備考
				細別							(外面・内面)		
第66図	2	台湾原産寺跡 (26次)	05N-T5-004-3	土師質土器・内耳土器	口径 31.4 器高 (17.6)	器厚はやや厚く、内耳のつづく口縁部は外湾したのち、直立して内張りしておさまる。耳は三つの典型的な筒筒型土器。外面全体にスス、全体は平滑にオサエで整える。口唇部は回転ナデ。内面は全体ヨコナデ。内耳接合部はナデ後面取り。内面下端に粘土層接合痕跡が確認できる。長石山城岡池か。	3/4	長石・石英細粒・スコリア・黒雲母	良好 やや 軟質	5YR 5/6 明赤期	在地産		
	3		05N-T5-004-3	土師質土器・内耳土器	口径 33.0 器高 (16.2)	器高がやや低く、口縁部は直立する。内厚で胴部は外相し内張りしておさまる。耳は三つの典型的な筒筒型土器だがうち二つを欠失。外面全体にスス、全体は平滑にオサエで整え下端部にケズリを施す。口唇部は回転ナデ。内面は全体ヨコナデ。内耳接合部はナデ後面取り。長石山城岡池。	2/3	長石・石英細粒・スコリア・黒雲母	良好 やや 軟質	7.5YR 6/8 粗	在地産		
第67図	1		05N-T7-001-2ほか	土師器・有台付	口径 117.6 器高 (5.1)	高台部欠失。口縁部がハの字に開き伸びておさまる。器厚は薄く、丁取なつくり。回転軸輪整形。外面下端～底部は回転ケズリ後高台貼付し接合部を回転ナデ。内面は回転ナデ後細かくミガキを施す。いわゆる類し焼成により内面が黒く発色している。	1/5	長石・石英・スコリア・白色雲母	焼成 普通 やや 軟質	10YR 4/2 灰黄期	新治産		
	2		05N-T7-001-2	黒土器・有台付	口径 19.3 器高 (3.3)	底部欠失。高台がかなり長く伸び、底部は丁寧に面取りされる。高台部の付け根から体部がハの字に広がる器形が想定される。9世紀中葉の所産とみる。回転軸輪整形。内面は平滑な回転ナデ。底部回転ヘラキリ後、中央部を視して回転ケズリを施す。高台貼付。接合部を回転ナデ。内厚ながら比較的丁寧な器面調整を行う。	底部片	長石・石英・チャート細粒・骨針	焼成 良好 硬質 堅固	7.5Y 5/1 灰	木炭所産		
	3		05N-T7-001-4	黒土器・フラスコ形瓶	口径 114.5 器高 (8.8)	外面にはやや暗い濃緑色の釉薬が分厚く垂下する。内面はラセンナデが強く縦筋として遺る。瓶元径からして少し小振りのものであろう。	—	長石・砂粒・黒色粘土多	焼成 良好 硬質 堅固	5Y 5/1 灰	東海系(産地不明)		

図版	番号	道跡名	出土位置	種別・器形細別	法量(cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調		備考
										(外面・内面)		
第67図	4	台渡里庵寺跡 (26次)	05N-T7-002-1	須恵器・有台長 頸瓶?	口径 8.2 器高 (2.7)	肉厚だが、高台端部の つくりが丁寧に内側に 突出しておさまる。通 気類の底部と推定し た。底部内面には円形 に濃緑色の自然釉が降 下していることから、 口径のさほど大きくない 長頸瓶であろう。肩 も輪縁整形。底部外面 は回転ケズリ後高台貼 付で接合部が回転ナデ 調整される。	底部片	長石・黒色・砂 粒・黒色粒子	焼成 良好 硬質 堅緻	5Y 6/1 灰	瀬内産カ	
	5		05N-T7-002-2	須恵器・甕	直径 [16.4] 器高 (4.8)	胎土が極めて密でなめ らか。やや器壁が厚い が精緻なつくりであ る。外面は細い平行卑 きを斜方向に施し、内 面は強いナデによって 器面を均質に整えてい る。	頸部片	長石・石英・ チャート細粒	焼成 良好 硬質 堅緻	10YR 6/1 灰	瀬内産 標置の本 置下産カ	
	6		05N-T7-003-3ほか	土師器・小杯	口径 [10.6] 器高 3.3	漆黒黒色(両面)。口 縁部内縁/無段無縁/ 丸底形態。大部分の漆 が剥離している。口縁 部ナデ。底部外面ケズ リ。底部内面は手持ち ナデ。	1/3	長石・石英・ チャート・ス コリア細粒・ 骨針	焼成 普通 やや 軟質	5YR 5/6 明赤褐		
	7		05N-T7-003-3ほか	土師器・小杯	口径 [10.6] 器高 2.5	漆黒黒色(両面)。口 縁部内縁/無段無縁/ 丸底形態。大部分の漆 が剥離している。口縁 部ナデ。底部外面ケズ リ。底部内面は手持ち ナデ。	1/3	長石・石英・ チャート・ス コリア細粒・ 骨針	焼成 普通 やや 軟質	5YR 5/6 明赤褐		
	8		05N-T7-003-1	土師器・甕	口径 [14.4] 器高 (3.0)	赤色系。口縁部分が短く やや外積しておさま る。底部はやや平底気 味におさまるか、肉厚 だが丁寧にで精緻なつ くり。外面のケズリは単 位が細く長い。内面は ナデ。輸入品か。	1/2	長石・石英細 粒・黒雲母	焼成 良好 やや 軟質	2.5YR 5/6 明赤褐		
	9		05N-T7-003-2	土師器・甕	口径 [19.0] 器高 3.3	褐色系。在壇産積形。 やや器壁が厚く、口 縁部は丸まっておさま る。極めて扁平な器形。 口縁部はナデ。底部は 外面を長く太い単位で ケズリ。内面を手持ち ナデにより調整する。	1/4	長石・石英・ スコリア細粒	焼成 良好 やや 軟質	5YR 6/6 橙		
	10		05N-T7-003-1	土師器・甕	口径 [23.8] 器高 (2.9)	赤色系。瀬内産系。丸 く肥厚した口縁部外面 直下に沈線を有する。 内面ナデ後放射状明 文。外面ケズリ後ミカ ホ。	1/6	長石・石英細 粒・砂粒	焼成 良好 やや 硬質	2.5YR 5/6 明赤褐		

図版	番号	遺跡名	出土	種別・器形 細別	法量	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調		備考
										(外面・内面)		
第67図	11	白渡里東寺跡 (26次)	05N-T7- 003-1	土師器・坪	口径 114.6 器高 3.5	赤色系。胎内(赤)系。 口縁部は上方へ立ち上 がり、やや突っっておさ まる。器壁は薄く精巧 なつくり。外面は横方 へ縁がはいりガキ。口縁 部内面はココナデ。底 部は放射状焼文。	口縁部片	長石・石英細 粒・砂粒	焼成 良好 やや 軟質	5Y 5/6 明赤褐色		
	12		05N-T7- 003-2	土師器・甕	口径 14.8 器高 6.2	やや内厚だが、丁寧な つくりである。頸部に 明瞭な段が形成され、 口縁部はハの字に外反 して立ち上がる。口縁 部はやや縮らみ、丸み を併げておさまる。頸 部内面の付け根に粘土 継接合痕を遺す。外面 ケズリ、内面ナデ。	頸部片	長石・石英・ チャート細 粒・スコリア	焼成 良好 やや 軟質	7.5YR 6/4 に近い 橙	在地産精製	
	13		05N-T7- 003-1ほか	土師器・甕	口径 129.6 器高 12.5	常形型覆、胴部下平 欠失するが、突出する 口縁部形部とザラつい た粗い胎土が特徴的 である。器壁は薄く丁寧 なつくりをなす。内 外面とも工具によるナデ 調整で平直に整える。	口縁部片	長石・石英・ 細粒・白雲母	焼成 良好 やや 軟質	7.5YR 5/6 明黄	新出産	
	14		05N-T7- 003-3	須恵器・有台坪	口径 110.8 器高 1.8	坏部を欠失。高台は細 く短い。底部はやや外 方へ突出しておさま る。高台の形状から高 台器種生産の最も低調 なII a期の製品と推定 できる。回転軸輪形。 内面にラセンナデ。外 面に回転ケズリ。	底部片	長石・石英・ チャート細 粒・骨針	焼成 良好 硬質 堅緻	2.5Y 5/1 黄灰	木葉下産	
	15		05N-T7- 003-2	須恵器・低脚甕	口径 111.4 器高 4.0	器壁が薄く精緻なつ くり。底部はシャープに 上下に突出する。回転 軸輪形。	頸部片	長石・石英・ チャート細 粒	焼成 良好 硬質 堅緻	5Y 6/1 灰	木葉下産	
第68図	1		05N-T7- 004-2ほか	土師器・坪	口径 113.8 器高 6.3	濃紫色系。口縁部内縁 ／有段／丸底形部。口 縁部は長く伸び、口縁 部でやや肥厚して丸く 収まる。全体の器形は 厚身で底部はやや薄く シャープ。口縁部直下 の段はナデツケにより 形成される。底部外面 はやや幅広いケズリに よって調整される。	1/3	長石・石英細 粒・骨針・ス コリア	焼成 良好 やや 軟質	10YR 3/2 黒黄		
	2		05N-T7- 004-1	須恵器・有台甕	口径 116.6 器高 2.6	高台端部はやや外反し て突出して丸くおさま る。回転軸輪形。底 部回転ケズリ後高台粘 付し接合部を回転ナ デ。	高台片	長石・石英・ チャート細 粒・骨針	焼成 良好 硬質 堅緻	N 4/ 灰	木葉下産	

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調		備考																																	
										(外面・内面)																																			
第68図	3	白鹿里摩寺跡 (26次)	05N-T8-16	土師器・埴	高さ (5.5)	漆黒黒色か。口縁欠のため太詳だが、埴形の器形ではないか。やや平底気味の底部で段や紐をもたずに立ち上がる。軟質で器面の割継が美しい。外面はケズリ調整。内面はナゲッラウンドにミガキをかけた後、放射状噴文風にミガキ仕上げとする。	2/3	長石・石英・チャート・矽粒・骨針	焼成 貫透 軟質	7.5YR 6/6 相																																			
第70図	1	トレンチ4	縄文土器	—	口径 (32.0) 器高 [5.3]	口径 32.0 cm (残存率 12%)。複合口縁。弧状文(櫛歯状工具)	口径 12%	砂粒(白・黒・紺)、小石	良好	にぶい黄緑・黒濁		焼剛																																	
	2									縄文土器	—		縄文(L.R)	底径 10%	砂粒(白多・透多)	良好	にぶい黄緑～黒濁・黒濁																												
	3																縄文土器	—	縄文(R.L)	底径 10%	砂粒(白多・透多)	良好	にぶい黄・にぶい黄濁																						
	5																						丸瓦	全長 (21.7) 厚さ (3.7) 重量 1045 g	凸面格子印き→横方向ケズリ、凹面布目痕	砂粒(白・黒・透)	軟質	2.5Y7/2 灰黄		山田京産カ															
	6																											平瓦	全長 (9.8) 厚さ (2.6) 重量 505 g		凸面格子印き、凹面布目痕	砂粒(白・黒・透)	やや軟質	10Y8/3 浅黄緑											
	7																																	平瓦	全長 (7.9) 厚さ (2.2) 重量 149 g	凸面格子印き、凹面布目痕	骨針、砂粒(白・透)	軟質	7.5YR6/1 灰						
	8																																						平瓦	全長 (10.2) 厚さ (2.5) 重量 289 g	凸面横方向ケズリ、凹面半切り痕→布目痕	砂粒(白多・透多)	やや軟質	7.5YR 7/6 相	

・括弧内の数値は、復元された口径や底径、または残存高を示す。

〈第3表 凡例〉

*「胎」の記載には、次の記号を使用する。

「金」: 金色を呈する風化した黒雲母片 (さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

「骨針」: 白色針状物質とも表記される海綿骨針 (さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

「白」: 白色不透明で長石あるいは石英と考えられる粒子 (さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

「黒」: 黒色で光沢を有し輝石あるいは角閃石と考えられる粒子 (さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

「透」: 透明で石英と考えられる粒子 (さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

第4表 石器観察表

図版	番号	遺跡名	出土位置	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	備考
						(mm)	(mm)	(mm)	(g)	
第70図	4	行渡里南寺跡(26次)	05N-T7・SB003-1	削片	チャート	20.0	29.0	7.0	4.0	

第5表 金属製品観察表

図版	番号	遺跡名	出土位置	器種	材質	長さ	幅	厚さ	重量	備考
						(mm)	(mm)	(mm)	(g)	
第29図	1	中河内遺跡(第1地点)	トレンチ	釘	鉄	106.0	28.0	1.85	25.0	
第51図	7	飯道跡(第3地点)	線 005 フタド 2区	釘	鉄	(49.0)	60.0	5.0	6.0	両側欠。一部板状に破壊。
第69図	1	行渡里南寺跡(26次)	05N-T1-001	釘	鉄	81.0)	40.0	4.5	5.0	上半部欠。
	2		05N-T1-001	吊子金具	鉄	86.0)	50.0	1.5	7.0	一部欠。3片接合、やや歪む。
	3		05N-T4-005-369	刀子	鉄	(135.0)	11.0	2.0	15.0	刃先欠。基部欠。刀身はやや研ぎ減っている。
	4		05N-T4-005 下層	輪形押	鉄	60.0	55.0	11.0	55.0	やや小形。
	5		05N-T5-001-1	鉄線?	鉄	(55.0)	5.0	2.5	5.0	棒状平欠。全体的にやや歪む。
	6		05N-T5-001-3	鉄線?	鉄	(45.0)	5.0	2.5	3.0	両側欠。2片接合、基部か。歪みをもつ。
	7		05N-T5-001-3	線?	鉄	(36.0)	5.0	3.0	2.0	両側欠。くの子に屈曲する。
	8		T5-001-289	線?	鉄	44.0 + 43.0	9.0	7.0	15.0	両側欠?ひび割れ。直角に折れ部がある。
	9		T5-001-4	線?	鉄	(22.0)	1.0	1.0	1.0	下半欠。直径0.8cm。
	10		T5-001-2	線?	鉄	(103.0)	17.0	2.0	18.0	両側欠。研ぎ減り?全体的にやや反る。
	11		05N-T7-003 下層	輪形押	鉄	83.0	73.0	36.0	202.0	

・計測値は、残存する状態での最大値である。

引用・参考文献

- 伊藤廉倫 1995 『茨城県水戸市 駆遺跡—住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会
- 井上義安 1988 『水戸市大舘町遺跡（仮称）元吉田第三住宅団地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市大舘町遺跡発掘調査会
- 1990 『薬王院東遺跡 千波中学校建設に伴う埋蔵文化財調査報告書』水戸市薬王院東遺跡発掘調査会
- 井上義安・夢沼香未由・仁平妙子・根本睦子 1999 『水戸市埋蔵文化財分布調査報告書 平成10年度版』水戸市教育委員会
- 茨城県教育委員会 2001 『茨城県遺跡地図』
- 大森信英 1952a 『渡里村大字堀字西原四号地下式墳』『茨城高等学校史学部紀要』第1号 茨城高等学校史学部
- 1952b 『渡里村大字堀字西原の地下式墳』『茨城高等学校史学部紀要』第1号 茨城高等学校史学部
- 小川和博・大淵淳志・川口武彦・松谷暎子 2006 『台渡里遺跡—集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会
- 斎藤 洋・新垣清貴 2005 『大舘町遺跡 グランディヒルズ元吉田造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会・グランディハウス株式会社・株式会社地域文化財コンサルタント
- 佐々木藤雄・関口慶久・大橋 生・林 邦雄 2006 『大舘町遺跡（第3地点）—市道浜田207号線側溝新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会
- 細谷弘一・佐藤次男・川井正一・根本康弘・市毛美津子 1994 『内原町の遺跡—内原町遺跡分布調査報告書—』内原町史編さん委員会

報告書抄録

ふりがな	へいせいじゅうななねんどみとしないいせきはつつちょうさほうこくしょ							
書名	平成17年度水戸市内遺跡発掘調査報告書							
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告 第11集							
編集者名	川口武彦・渥美賢吾							
著者名	川口武彦・関口慶久・新垣清貴・渥美賢吾・色川順子・木本孝周							
編集・発行機関	水戸市教育委員会	所在地	〒310-8610 茨城県水戸市中央1-4-1 ☎029-224-1111 (代)					
発行年月日	2007(平成19)年3月27日							
所収遺跡名	所在地	コード			調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因	
		市町村	遺跡 番号	北緯 °' "				東経 °' "
下 遺跡 (第2地点)	河和町1丁目1639-1 の一部	08201	015	36° 22' 27"	140° 24' 45"	2005.8.22～8.26	58.4	共同住宅建築
下 遺跡 (第3地点)	河和町1645-13	08201	015	36° 22' 27"	140° 24' 45"	2005.9.15～9.16	5.8	宅地造成工事
五川筋跡 (第1地点)	内原町字タテ 585-1	08305	059	36° 22' 04"	140° 21' 51"	2005.10.12	2	個人住宅建築
五川筋跡 (第2地点)	内原町字タテ 585-5	08305	059	36° 22' 04"	140° 21' 51"	2006.1.13	29.4	個人住宅建築
大田遺跡 (第2地点)	大田町 610-2、610-4、 610-5、610-6	08201	176	36° 22' 02"	140° 32' 36"	2005.4.6	3.8	個人住宅建築
大田町遺跡 (第3地点)	元六田町 2776-1～ 2282-3(市道沿道207号線)	08201	011	36° 21' 19"	140° 29' 08"	2005.6.24	10	宅地造成工事
大田町遺跡 (第4地点)	元六田町字 狐塚 2341-8、 2341-9	08201	011	36° 21' 19"	140° 29' 08"	2005.6.9	1	個人住宅建築
大田町遺跡 (第5地点)	元六田町字 狐塚 2280-12	08201	011	36° 21' 19"	140° 29' 08"	2005.11.9	92.7	宅地造成工事
加賀市北沢東部跡 (第1地点)	成沢町 466-2	08201	207	36° 25' 25"	140° 23' 37"	2005.4.18	4	資料置場建築
宮原神社古墳 (第1地点)	渡里町字小山ノ上 2413-4	08201	230	36° 24' 12"	140° 26' 41"	2005.7.7～7.28	28.1	共同住宅建築
宮原水道 (第20地点)	字渡町 1263 (都市計画道路3-4-8号線)	08201	174	36° 21' 45"	140° 28' 00"	2005.6.30	4.6	道路新設
宮原町遺跡 (第1地点)	藤原町 768-2	08201	020	36° 22' 25"	140° 27' 46"	2006.3.17	2	個人住宅建築
宮久保遺跡 (第1地点)	大塚町字釜久保 1612-15	08201	124	36° 23' 16"	140° 23' 47"	2006.1.17	2	共同住宅建築
河和山 城跡 (第2地点)	河和町 1019	08201	102	36° 22' 02"	140° 24' 45"	2006.3.29	6	新水橋建設
林 塚遺跡 (第1地点)	河和町 1109	08201	274	36° 21' 56"	140° 24' 31"	2005.10.25	81	共同住宅建築
林 塚遺跡 (第2地点)	河和町字西宮 1082-1	08201	274	36° 21' 56"	140° 24' 31"	2005.12.14～12.19	91	共同住宅建築
東原坂遺跡 (第1地点)	上原町 3585-1	08201	046	36° 20' 34"	140° 26' 43"	2005.8.8	2	個人住宅建築
熊野塚跡 (第1地点)	熊野町字ノノ 3110-2	08201	276	36° 20' 49"	140° 20' 52"	2005.12.7	12	個人住宅建築
小林 塚遺跡 (第1地点)	小林町字富士前 398-2 ㊦	08201	276	36° 21' 25"	140° 20' 52"	2005.12.7	10	個人住宅建築
全彌寺遺跡 (第1地点)	間 江町字馬場西 387-12	08201	134	36° 24' 05"	140° 23' 46"	2005.11.15	4	個人住宅建築
全彌寺遺跡 (第2地点)	間 江町字馬場西 387-52 ㊦	08201	134	36° 24' 05"	140° 23' 46"	2005.11.24	13.9	個人住宅建築
全彌寺遺跡 (第3地点)	間 江町字馬場西 387-51	08201	134	36° 24' 05"	140° 23' 46"	2005.11.24	21.9	個人住宅建築
全彌寺遺跡 (第4地点)	間 江町字馬場西 387-31 ㊦	08201	134	36° 24' 05"	140° 23' 46"	2006.2.8	4	個人住宅建築

所収道路名	所在地	コード		北緯 °	東経 °	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	道路 番号					
全通中道路 (第5地点)	間古町字馬場内 387.55 外	08201	134	36° 24' 05"	140° 23' 46"	2006.2.8	4	個人住宅建築
全通中道路 (第6地点)	間古町字馬場内 387.1	08201	134	36° 24' 05"	140° 23' 46"	2006.3.27	4	個人住宅建築
上野道路 (第2地点)	元石町字山上 1584.6	08201	006	36° 19' 29"	140° 29' 57"	2006.3.14	4.28	個人住宅建築
足尾道路 (第2地点)	新瀬町字三ノ所 2802.5	08305	025	36° 21' 01"	140° 22' 12"	2005.5.25	2	個人住宅建築
下尾内道路 (第1地点)	反妻台4丁目 143-100, 101	08201	066	36° 23' 44"	140° 24' 00"	2005.12.27	11.7	個人住宅建築
下野道路 (第2地点)	下野町字黄浦 289.29, 289.30	08305	021	36° 20' 01"	140° 22' 21"	2005.4.28	2	個人住宅建築
宇波道路 (第1地点)	宇波町字東久夜 14.31, 14.33	08201	012	36° 21' 55"	140° 27' 50"	2005.9.8	4	個人住宅建築
沼田 (小林町地内)	小林町字小林 1200.204	—	—	36° 21' 09"	140° 21' 07"	2005.7.12	30	個人住宅建築
沼田 (木更町地内)	木更町 836-1 外	—	—	36° 25' 24"	130° 21' 02"	2005.9.7	5	砂利石採掘
沼田道路 (第1地点)	新瀬町字三ノ所 3209-1	08201	129	36° 20' 48"	140° 22' 01"	2006.3.20	4	基地局建設
高取古墳群 (第1地点)	大塚町字流原 1031-4	08201	242	36° 19' 53"	140° 32' 01"	2005.6.23	3.8	個人住宅建築
竹ノ内道路 (第1地点)	内屋町字竹ノ内 1498.166, 1498.176	08305	112	36° 12' 39"	140° 21' 21"	2005.6.15	1	個人住宅建築
竹ノ内道路 (第2地点)	内原町字太子 1498-166, 1498-176	08305	112	36° 12' 39"	140° 21' 21"	2006.1.13	6	個人住宅建築
台湾原中津路 (第36.37)	渡里町字前番 2874-1 外	08201	098	36° 24' 30"	140° 26' 00"	1次 2005.8.24～ 10.7 2次 2005.12.13～ 12.28	1636.5	商業施設建設
長者山昇降 (第1地点)	渡里町字長者山 3154.9, 3154.55	08201	100	36° 24' 40"	140° 26' 00"	2005.11.1	2	個人住宅建築
井原道路 (第1地点)	山形町 1013.52	08201	210	36° 24' 37"	140° 24' 44"	2005.11.1	2	個人住宅建築
中河内道路 (第1地点)	中河内町 196.2, 211.2	08201	065	36° 24' 22"	140° 27' 36"	2005.9.22	3.9	個人住宅建築
長瀬道路 (第1地点)	大塚町 1039-2	08305	070	36° 23' 10"	140° 22' 12"	2005.10.20	2	個人住宅建築
内原古墳群 (第1地点)	渡里町字野木 3366-2, 3366-4, 3366-12	08201	080	36° 24' 35"	140° 25' 13"	2005.6.1	2	個人住宅建築
内原古墳群 (第2地点)	堀町字宮脇 47.2	08201	080	36° 24' 35"	140° 25' 13"	2005.9.13	5	個人住宅建築
内原古墳群 (第3地点)	堀町字宮脇 47.8	08201	080	36° 24' 35"	140° 25' 13"	2005.9.13	3.8	個人住宅建築
内原古墳群 (第4地点)	渡里町字野木 3387-121	08201	080	36° 24' 35"	140° 25' 13"	2005.11.8	2	個人住宅建築
内原古墳群 (第5地点)	堀町字長島 325 単-11, 326-6, 326-7	08201	080	36° 24' 35"	140° 25' 13"	2005.11.17	6	個人住宅建築
内原古墳群 (第6地点)	堀町字宮脇 49.17～20	08201	080	36° 24' 35"	140° 25' 13"	2005.12.1～12.2	32	個人住宅建築
内原古墳群 (第7地点)	堀町字馬場東 279-1	08201	080	36° 24' 35"	140° 25' 13"	2006.2.8	14.2	個人住宅建築
井原 (第1地点)	山形町字井原 420-5	08305	065	36° 23' 47"	140° 22' 08"	2005.12.22	5.8	個人住宅建築
足尾道路 (第1地点)	新瀬町 154-1, 154-5	08201	156	36° 19' 32"	140° 27' 10"	2005.7.11	1.3	個人住宅建築
足尾道路 (第2地点)	東野町字北別 35-3, 52-3, 52-5	08201	156	36° 19' 32"	140° 27' 10"	2005.11.18	4	個人住宅建築
足尾道路 (第3地点)	新瀬町字中山 77-1	08201	156	36° 19' 32"	140° 27' 10"	2005.11.21	46.1	共同住宅建築
足尾道路 (第4地点)	東野町字南別 141.9, 141.19	08201	156	36° 19' 32"	140° 27' 10"	2005.12.8	4	個人住宅建築

所収遺跡名	所在地	コード		北緯 °'〃	東経 °'〃	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
嵐 別遺跡 (第5地点)	嵐別町 東野町字南別 102-14	08201	156	36° 19' 32"	140° 27' 10"	2005.12.27	9.6	個人住宅建築
嵐 別遺跡 (第6地点)	嵐別町 東野町字南別 102-1、 102-13	08201	156	36° 19' 32"	140° 27' 10"	2006.1.26	22	個人住宅建築
平塚遺跡 (第1地点)	山谷町 藤岡台 2391-4	08201	040	36° 26' 04"	140° 26' 49"	2005.5.31	2	個人住宅建築
藤井町遺跡 (第1地点)	藤井町 字坂下 927-5	08201	032	36° 26' 48"	140° 24' 02"	2005.7.28	2	個人住宅建築
藤井遺跡 (第1地点)	三岡町 上段 80-3	08305	089	36° 22' 19"	140° 20' 44"	2005.7.13	1.5	個人住宅建築
堀遺跡 (第3地点)	渡里町 字高野台 3237-3 外	08201	064	36° 24' 32"	140° 25' 36"	1次 2005.5.12 2次 2005.7.19～ 8.10	35.6	宅地造成工事
堀遺跡 (第4地点)	堀町 426-8、426-9の一部	08201	064	36° 24' 32"	140° 25' 36"	2006.2.1～2.2	81	宅地造成工事
万蔵寺遺跡 (第1地点)	神岡町 字四ノ羽 3515-1	08305	125	36° 20' 48"	140° 21' 39"	2006.2.21	1	店舗建設
水戸屋跡 (第2地点)	三の丸 2-6-8	08201	172	36° 22' 26"	140° 28' 47"	2005.5.30	2	法面保護工事
水戸屋跡 (第3地点)	三の丸 2-9-22	08201	172	36° 22' 26"	140° 28' 47"	2005.8.29～9.1	42.5	学校校舎改築
藤井町古墳群 (第1地点)	藤井町 字新戸 865-3、 865-7	08201	087	36° 23' 20"	140° 22' 20"	2005.11.29	3	個人住宅建築
堀 遺跡 (第1地点)	有賀町 614	08305	082	36° 22' 40"	140° 21' 35"	2005.10.27	2	個人住宅建築
谷田古墳群 (第1地点)	西門町 587-1	08201	069	36° 20' 55"	140° 29' 48"	2005.4.5	30	共同住宅建築
谷田古墳群 (第2地点)	西門町 字大塚 582-1	08201	069	36° 20' 55"	140° 29' 48"	2005.4.14	7	共同住宅建築
谷田古墳群 (第3地点)	西門町 589-1の一部	08201	069	36° 20' 55"	140° 29' 48"	2006.2.15	4	共同住宅建築
谷田古墳群 (第4地点)	西門町 587-1	08201	069	36° 20' 55"	140° 29' 48"	2006.3.15	19	共同住宅建築
横吉遺跡 (第1地点)	元吉田町 2649-54	08201	057	36° 21' 09"	140° 29' 17"	2005.11.11	4	個人住宅建築
米沢町遺跡 (第1地点)	千波町 字中道南 1503 外	08201	058	36° 21' 13"	140° 28' 05"	2005.8.11～8.19	132	宅地造成工事
米沢町遺跡 (第2地点)	千波町 字中道南 1502-3	08201	058	36° 21' 13"	140° 28' 05"	2006.1.30	24	個人住宅建築
米沢町遺跡 (第3地点)	千波町 字中道南 1502-3	08201	058	36° 21' 13"	140° 28' 05"	2006.1.30	42	個人住宅建築
堀 遺跡 (第1地点)	三岡町 字菟岡 1108-421	08305	113	36° 21' 51"	140° 20' 50"	2005.8.10	2	個人住宅建築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
行遺跡 (第2地点)	集落跡	縄文・古墳・ 奈良・平安	なし	縄文土器、土師瓦土 器、陶器	
行遺跡 (第3地点)	集落跡	縄文・古墳・ 奈良・平安	なし	縄文土器、土師瓦 器、土師瓦	
江川敷跡 (第1地点)	集落跡	縄文・奈良・ 古墳・奈良・ 平安	なし	なし	
江川敷跡 (第2地点)	集落跡	古墳・奈良・ 平安・近世	なし	なし	
大塚遺跡 (第6地点)	集落跡	縄文・古墳・ 奈良・平安	なし	なし	
大塚町遺跡 (第3地点)	集落跡	縄文・古墳・ 奈良・平安・ 近世・近世	溝	遺存瓦、陶器、土師 瓦土器	
大塚町遺跡 (第4地点)	集落跡	縄文・縄文・ 奈良・古墳・ 奈良・平安・ 近世・近世	なし	なし	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大塚町遺跡 (第5地点)	集落跡	先土器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世	なし	なし	
加倉井史光跡跡 (第1地点)	集落跡	中世・近世	なし	土師器・須恵器(奈良・平安)	
菅原神社古墳 (第1地点)	古墳	古墳	土坑, ビット	縄文土器, 土師器, 須恵器, 陶器, 礎	
吾郎水道 (第20地点)	水道跡	近世	なし	なし	
釜神町遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文・近世	なし	縄文土器, 土師器土器, 瓦葺土器, 陶器, 礎, 礎	
茶久保遺跡 (第1地点)	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安	なし	土師器	
河和田城跡 (第2地点)	城跡跡	中世	なし	なし	
経塚遺跡 (第1地点)	集落跡	中世・近世	なし	なし	
経塚遺跡 (第2地点)	集落跡	中世・近世	堀, 地下式坑, 土坑	土師器, 須恵器, 土師器土器, 内瓦土器, 陶器, 礎石, 礎	中世の河和田城跡に関連すると思われる跡や埋土式坑, 土器など多数出土したことから, 河和田城跡の土地利用が現在の指定範囲よりも広域に広がっていたことが明らかになった。
野尻坂遺跡 (第1地点)	集落跡	先土器・縄文・弥生・奈良・平安	土坑	縄文土器, 土師器, 須恵器, 礎	
標岡城跡 (第1地点)	城跡跡	中世	なし	なし	
小林遺跡 (第1地点)	包蔵地	古墳・奈良・平安・中世	なし	なし	
金網寺遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文・奈良・平安・中世	なし	なし	
金網寺遺跡 (第2地点)	集落跡	縄文・奈良・平安・中世	なし	なし	
金網寺遺跡 (第3地点)	集落跡	縄文・奈良・平安・中世	なし	なし	
金網寺遺跡 (第4地点)	集落跡	縄文・奈良・平安・中世	なし	なし	
金網寺遺跡 (第5地点)	集落跡	縄文・奈良・平安・中世	なし	なし	
金網寺遺跡 (第6地点)	集落跡	縄文・奈良・平安・中世	なし	なし	
上郷遺跡 (第2地点)	集落跡	縄文・古墳	土坑	縄文土器, 新片	
沼安遺跡 (第2地点)	包蔵地	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世	なし	なし	
下京町遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文・古墳	溝跡	縄文土器	
十野遺跡 (第2地点)	包蔵地	縄文・奈良・平安	なし	縄文土器, 土師器土器, 瓦葺土器, 礎	
下本郷遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文	なし	なし	
沼知内 (小林町地内)	—	—	なし	なし	
沼知内 (木葉下町地内)	—	—	なし	なし	
沼西遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文・奈良・平安	なし	なし	
高原古墳群 (第1地点)	古墳群	古墳	なし	弥生土器, 土師器, 須恵器, 軒平瓦, 礎	
竹ノ内遺跡 (第1地点)	包蔵地	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世	なし	陶器, 礎, 土師器土器	
竹ノ内遺跡 (第2地点)	包蔵地	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世	なし	なし	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
白雲里庚寺跡 (第26次)	観音寺跡	先土器・縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世	窠穴住居跡、観立柱建物跡、溝、井戸	縄文土器、土師器、須恵器、内封土器、土師質土器、鉄製品、瓦	7世紀後半に建るとみられる窠穴住居跡や観立柱建物跡が多数確認され、観立山地区の初瀬寺院や那智郡御所の造りに伴う集落の一部であったとみられる。また、窠穴建物跡と並存する南方地区の東側寺院地区も確認された。これらで判断されていた7世紀後半以降の富室年代を遡らせる結果が得られた。さらに中前の観立柱建物跡や井戸跡も確認され、長谷山観跡に係る土地利用が地上に広く展開していたことが明らかになった。
長者山城跡 (第1地点)	城跡跡	中世	溝	なし	
舟形遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	なし	なし	
中河内遺跡 (第1地点)	集落跡	古墳・奈良・平安・近世	なし	土師器、須恵器、鉄製品、磁器	
長嶋遺跡 (第1地点)	包蔵地	古墳・奈良・平安・中世・近世	なし	なし	
西原古墳群 (第1地点)	古墳群	古墳	なし	なし	
西原古墳群 (第2地点)	古墳群	古墳	なし	なし	
西原古墳群 (第3地点)	古墳群	古墳	なし	なし	
西原古墳群 (第4地点)	古墳群	古墳	なし	なし	
西原古墳群 (第5地点)	古墳群	古墳	なし	なし	
西原古墳群 (第6地点)	古墳群	古墳	古墳周囲溝	埴輪、土師器、礎	埴輪の削平された付着とみられる埴輪が確認され、埴輪が用いられたことから推定も7世紀代から葛城の形が明らかになってきたことが明らかになった。
西原古墳群 (第7地点)	古墳群	古墳	なし	なし	
舟形遺跡 (第1地点)	包蔵地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	なし	陶器、磁器、土師質土器	
東洲遺跡 (第1地点)	集落跡	先土器・奈良・平安	なし	なし	
東洲遺跡 (第2地点)	集落跡	先土器・奈良・平安	溝跡	土師器、須恵器	
東洲遺跡 (第3地点)	集落跡	先土器・奈良・平安	なし	なし	
東洲遺跡 (第4地点)	集落跡	先土器・奈良・平安	なし	なし	
東洲遺跡 (第5地点)	集落跡	先土器・奈良・平安	なし	なし	
東洲遺跡 (第6地点)	集落跡	先土器・奈良・平安	なし	なし	
平塚遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文・弥生・古墳	なし	縄文土器、弥生土器、土師器、礎	
船井町遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文・弥生・古墳	なし	なし	
舞台遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安	なし	土師器、瓦質土器、陶器、礎	
原遺跡 (第3地点)	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世	窠穴住居跡	土師器、須恵器	
原遺跡 (第4地点)	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世	窠穴住居跡、土坑	縄文土器、須恵器、陶器、土師質土器	奈良・平安時代の窠穴住居跡が多数確認されたとともに7世紀後半の遺物が出土する窠穴住居跡も確認された。これらで7世紀後半の集落は行理寺院跡跡や舟形遺跡跡で確認されていたが、集落跡にも当該期の集落が広がっていたことが明らかになった。
万歳寺遺跡 (第1地点)	包蔵地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世	なし	なし	
水戸城跡 (第2地点)	城跡跡	中世・近世	惣堀	陶器、磁器、土師瓦、ガラス、銅瓦、漆喰、礎	
水戸城跡 (第3地点)	城跡跡	中世・近世	地下室、ピット、土坑、竪穴	磁器、土器、近世瓦	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
妙蓮寺付近古墳群 (第1地点)	古墳群	古墳	なし	なし	
山原遺跡 (第1地点)	包蔵地	奈良・平安	なし	なし	
智田古墳群 (第1地点)	古墳群	古墳	土坑	土師器、陶器、磁器、 瓦葺土器、礎	
智田古墳群 (第2地点)	古墳群	古墳	なし	なし	
智田古墳群 (第3地点)	古墳群	古墳	なし	なし	
智田古墳群 (第4地点)	古墳群	古墳	なし	なし	
横町遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文・弥生・ 古墳	なし	なし	
末沢町遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文・弥生・ 古墳・奈良・ 平安・中世・ 近世	遺物包古棚、桶埋設遺構、溝跡、ピット群	縄文土器、土師器、 須恵器、瓦葺土器、 礎	
末沢町遺跡 (第2地点)	集落跡	縄文・弥生・ 古墳・奈良・ 平安・中世・ 近世	なし	縄文土器、土師器、 須恵器、陶器、礎	
末沢町遺跡 (第3地点)	集落跡	縄文・弥生・ 古墳・奈良・ 平安・中世・ 近世	なし	土師器、須恵器、陶 器	
山原遺跡 (第1地点)	包蔵地	縄文・奈良・ 平安	なし	なし	

※北緯・東経は世界測地系による。

水戸市埋蔵文化財調査報告

第1集	台渡里廃寺跡—範囲確認調査報告書—	2005年3月発行
第2集	台渡里廃寺跡 —市道常磐17号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(1)—	2005年4月発行
第3集	大鋸町遺跡 —グランディヒルズ元吉田造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2005年8月発行
第4集	台渡里廃寺跡 —市道常磐17号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)—	2006年3月発行
第5集	台渡里遺跡—集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2005年3月発行
第6集	吉田古墳Ⅰ—史跡整備計画に伴う吉田古墳群第3次調査報告書—	2006年3月発行
第7集	大鋸町遺跡(第3地点) —市道浜田207号線側溝新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2006年3月発行
第8集	坏遺跡(第3地点) —ヴィヴァンコート赤塚建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2007年3月発行
第9集	坏遺跡(第4地点) —プランタンコリーヌⅡ建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2007年3月発行
第10集	吉田古墳Ⅱ —史跡整備計画に伴う吉田古墳群第1号墳の第3次発掘調査報告書—	2007年3月発行
第11集	平成17年度水戸市内遺跡発掘調査報告書	2007年3月発行

水戸城跡	三の丸土塁および堀の復旧に伴う工事・調査報告書	2006年9月発行
------	-------------------------	-----------

水戸市埋蔵文化財調査報告 第11集

平成17年度水戸市内遺跡発掘調査報告書

印刷 平成19年3月27日
発行 平成19年3月27日
編集 水戸市教育委員会
発行 水戸市教育委員会
印刷 株式会社 二鶴堂印刷所
水戸市千波町2770-4
TEL 029-243-1388

